

令和2年度事業報告

社会福祉法人ゆうかり学園

1、評議員会・理事会の開催状況

本年度は、下記のとおり評議員会及び理事会を開催した。

第一回理事会 令和2年6月11日（木）

理事6名中6名出席 監事2名中2名出席

第一号議案 令和元年度事業報告（案）審議の件について

第二号議案 2019年度決算報告（案）審議の件について

第三号議案 監事監査報告の件について

第四号議案 社会福祉充実残高に関する審議について

第五号議案 令和2年度第一次補正予算書（案）審議の件について

第六号議案 社会福祉法人ゆうかり学園評議員選任・解任委員会
委員の任期満了に伴う選任について

第七号議案 定例評議員会招集に関する審議の件について

第八号議案 その他の件について

第一回評議員会 令和2年6月26日（金）

（新型コロナウイルス感染予防対策のため定款15条の4の規定に基づき
書面審議とした）

第一号議案 令和元年度事業報告（案）審議の件について

第二号議案 2019年度決算報告（案）審議の件について

第三号議案 監事監査報告の件について

第四号議案 社会福祉充実残高に関する審議について

第五号議案 令和2年度第一次補正予算書（案）審議の件について

上記全議案全員承認

第二回理事会 令和2年11月24日(火)

理事6名中6名出席 監事2名中2名出席

- 第一号議案 令和2年度 社会福祉法人ゆうかり学園
第二次補正予算書(案) 審議の件について
- 第二号議案 ゆうかり医療療育センターに於ける
HOPE 医事システム用ソフトウェア一式・
ハードウェア一式 購入について
- 第三号議案 ゆうかり医療療育センターに於ける画像情報システム
SPINE-2 購入について
- 第四号議案 ゆうかり医療療育センターに於ける自動血球計数装置
(5分類) 購入について
- 第五号議案 千歳療護園車輛納入契約について
- 第六号議案 丸紅基金助成金(第二千歳療護園)に伴う納入業者の
決定について
- 第七号議案 人事院勧告の件について
- 第八号議案 評議員会招集に関する審議の件について
- 第九号議案 その他の件について

第二回評議員会 令和2年12月7日(月)

(新型コロナウイルス感染予防対策のため定款15条の4の規定に基づき
書面審議とした)

- 第一号議案 令和2年度第二次補正予算書(案) 審議の件について
上記全議案全員承認

第三回理事会 令和3年3月15日(月)

理事6名中6名出席 監事2名中2名出席

- 第一号議案 令和2年度第三次補正予算(案) 審議の件について
- 第二号議案 令和3年度事業計画(案) 審議の件について
- 第三号議案 令和3年度当初予算(案) 審議の件について
- 第四号議案 人事考課規程制定(案)、就業規則改正(案)、
臨時職員就業規則改正(案)、宿日直規程改正(案)
審議の件について
- 第五号議案 施設長等の契約について
- 第六号議案 令和3年度給食納入業者の選定について

- 第七号議案 公益財団法人あすなろ福祉財団 助成金申請
(千歳療護園) について
- 第八号議案 人材確保等支援助成金申請【介護福祉機器助成コース】
(ゆうかり医療療育センター) について
- 第九号議案 多機能型簡易居室の設置について
(福岡県障害福祉サービス等新型コロナウイルス
感染症緊急包括支援事業)
- 第十号議案 評議員会招集に関する審議の件
- 第十一号議案 その他の件について

第三回評議員会 令和3年3月29日(月)

(新型コロナウイルス感染予防対策のため定款15条の4の規定に基づき
書面審議とした)

- 第一号議案 令和2年度第三次補正予算(案) 審議の件について
- 第二号議案 令和3年度事業計画(案) 審議の件について
- 第三号議案 令和3年度当初予算(案) 審議の件について
- 上記全議案全員承認

2、令和2年度心身障害児者の施設利用状況

ゆうかり医療療育センターの利用状況は、医療型障害児入所施設(定員150名)では延7,945名、一日平均21.8名、療養介護事業所(定員150名)では延39,465名、一日平均108.1名、私的入院では延74名であった。入所率は150定員に対して86.6%であった。短期入所では12名の利用があり、延利用日数は46日であった。一方、日中一時支援も4名の利用があり、延5回の利用があった。

コアラ園では、児童発達支援事業(定員20名)に対し延2,674名、一日平均11.14名が利用された。また、放課後等デイサービス事業(定員10名)では延193名、一日平均0.8名であった。保育所等訪問では延6名の利用があった。

耳納学園においては、施設入所支援(定員34名)に対し、延10,442名の利用があり、一日平均28.6名、充足率は84.1%、就労継続支援B型(定員40名)では、年間作業参加実績延6,854名、定員から見た充足率は、70.5%、一日平均作業参加実績利用者数は28.2名であった。

千歳療護園の利用状況は、生活介護(定員50名)が延11,718名で95.2%の充足率、施設入所支援(定員40名)は延べ14,315名で98.0%の充足率であった。内訳は5名の利用者が延べ426日間の入院の他、外泊の利用者はおらず、

入院日数を除くと実利用者数は延べ 14,315 名で 98.0%の充足率であった。短期入所利用者は延べ 23 名、日中一時の利用者はなかった。

第二千歳療護園の利用状況は、施設入所支援（定員 40 名）が年間実利用者数 14,118 名で 96.7%の充足率。1 日平均利用者数は 38.6 名であった。生活介護（定員 40 名）は年間延べ利用者数 10,098 名で 96.7%の充足率であった。内訳は 5 名の利用者が延べ 451 日間の入院の他、退園による減数が 31 日間であった。外泊については新型コロナウイルス感染拡大防止のため自粛して頂いており該当者なし。短期入所は 1 名の利用者が年間延べ 295 日間（緊急短期入所受け入れ）利用されている。日中一時の利用者はなかった。

施設毎の事業報告の詳細は 10 頁以降に掲載している。

3、助成事業関連

- ① 令和 2 年度 新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業（障がい分）
感染症対策に要する物品購入をはじめ、多機能型簡易居室の設置を行ない、
感染防止対策の徹底に努めた。

(1) 障がい福祉慰労金事業

総事業費	16,950,000 円	交付金	16,950,000 円
対象者	339 名		

(2) 感染対策徹底支援事業（多機能型簡易居室設置に要する費用を除く）

総事業費	9,719,803 円	交付金	8,381,000 円
自己資金	1,338,803 円		

(3) 感染対策徹底支援事業（多機能型簡易居室設置に要する費用に限る）

総事業費	18,820,000 円	交付金	12,000,000 円
自己資金	6,820,000 円		

(4) 環境整備への助成事業

総事業費	1,032,303 円	交付金	985,000 円
自己資金	47,303 円		

② 令和 2 年度 障害者福祉分野の ICT 導入モデル事業

新型コロナウイルス感染拡大防止のため利用者様と保護者とのオンライン面会に利用すると共に、事業所の生産性向上の推進を計った。

（ゆうかり医療療育センター）タブレット 4 台

総事業費	247,214 円	補助金	247,000 円
自己資金	214 円		

(夢の紀) 計画相談用クラウドサービス一式

総事業費 995,566 円 補助金 995,000 円

自己資金 566 円

(コアラ) タブレット 2 台

総事業費 121,420 円 補助金 121,000 円

自己資金 420 円

(耳納学園) タブレット 1 台

総事業費 59,686 円 補助金 59,000 円

自己資金 686 円

(千歳療護園) タブレット 2 台及び Wi-Fi 環境整備

総事業費 988,592 円 補助金 988,000 円

自己資金 592 円

(第二千歳療護園) タブレット 2 台及び Wi-Fi 環境整備

総事業費 945,912 円 補助金 945,000 円

自己資金 912 円

③ 令和 2 年度 障害福祉分野のロボット等導入支援事業

利用者様の急変時（特に夜間）に早期対応が可能となり、より安心安全なサービスが提供できるようになった。

(千歳療護園) 眠りスキャン及び付属機器（見守り）5 台

総事業費 593,340 円 補助金 593,000 円

自己資金 340 円

(第二千歳療護園) 眠りスキャン及び付属機器（見守り）5 台

総事業費 593,340 円 補助金 593,000 円

自己資金 340 円

④ 令和 2 年度 久留米市障害者支援施設等緊急短期雇用創出事業

新型コロナウイルス感染症の影響により、学生・留学生を含め働く場を失った方に対し緊急に短期の雇用を創出した。

(ゆうかり医療療育センター) 対象者 3 名（事務員・介護員・調理員）

総事業費 1,114,735 円 補助金 1,114,000 円

自己資金 735 円

⑤ 丸紅基金助成金（第二千歳療護園）

利用者様の高齢化による重度化がすすみ、介護場面での職員の身体的負担も大きくなり、より安心安全なサービス提供の為に、天井走行リフト一式を設置した。

総事業費	4,055,425 円	助成金	2,000,000 円
自己資金	2,055,425 円		

⑥ 国土交通省自動車事故対策補助金による事業（千歳療護園）

標記について、前年度に引き続き千歳療護園に対し、6,608,550 円の補助金の交付を受けて、入所施設支援費 614,228 円（内自己資金 111,364 円）及び人材雇用費として 6,105,686 円を支出した。入所施設支援費については福祉機器（昇降式テーブル・ギャッジベッド）を整備した。

4、賛助会員の状況

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に、「典心の湯」の利用や会議室の貸し出し等を中止とし、賛助会員の新規契約・継続更新を見送ることとした。

広報紙（年 3 回発行）は昨年度の会員の方へ送付した。

5、利用者様のサービス向上に関する事項

苦情解決委員会をはじめとする各委員会活動を通じて、利用者様のサービスの向上、並びに職員の資質向上に努めた。

6、定例事業

(1) 盆踊り・花火大会の開催

大会期日を令和 2 年 7 月 30 日(木) ※雨天順延 とし、準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に、今年度は開催を見送ることとした。

(2) 運動会の開催

開催期日を令和 2 年 10 月 10 日(土)とし、2 月に東部運動公園の調整会議に参加し、会場の確保を行ったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に、今年度は開催を見送ることとした。

各施設、寮では運動会の代わりとして室内レクリエーションを企画し実施した。

(3) 韓国瑞林福祉院との職員交流研修事業
新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、中止

(4) 耳納学園展示即売会
新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、中止

7、職員研修事業（園内）

(1) 外部講師による人権研修
新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、中止

(2) 園内研修会の実施

- ・メンタルヘルス研修会
- ・感染症研修会
- ・虐待防止研修会
- ・報告会（苦情解決、安全管理、感染症対）

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、ビデオ研修及び書面での報告を行った。

QC 発表会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止。

(3) 新任職員研修
いずれも別添報告書の通り内容を進化させながら実施した。

8、委員会活動

苦情解決委員会はじめ各委員会活動は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら慎重に行ってきた。その他各委員会からの報告は別添のとおりであった。

9、その他の事業

① 新型コロナウイルス感染症対策

厚労省通達及び国の基本方針の発表を受けて基本指針を作成（2020. 2. 26）し、その後、見直しを重ねながら感染防止対策に万全を尽くしてきた。

また、典心の湯についても基本指針に基づき前年度より閉鎖を継続した。

令和2年度新任職員研修

研修のねらい

- ・1回目は入職にあたっての最低限必要と思われる内容にとどめ、実務をより早く経験する。
- ・2回目を3ヶ月～6ヶ月後あたりに開催し、理事長講義、新任職員に事前にアンケートをとり、新任職員になって自分の抱えている悩みやこれからの期待、日常業務の中で疑問に思っていること等をグループ討議で話し合いしてもらう。
- ・3回目は、1年間を通じての現場実習の最終日とする。
 - ①1年間を通じ、法人内の他部署の仕事を体験し、自分の仕事に対する姿勢を振り返る機会とする。
 - ②新任職員が顔を合わせて話し合い、同じ様な悩みや不安を持っていながらも、みんな頑張っている状況を知り、自分だけではないことを共有すると共に、今後の自分の仕事に対する姿勢や課題を再確認し、心をリセットする。

令和2年4月1日(水)

地域支援棟 研修室

9:00～18:00

研修概要	内容	開始時間	終了時間	備考
	集合後 ⇒ オリエンテーション	9:00	9:10	研修室
1	辞令交付	9:10	9:40	
	休憩	9:40	9:45	
2	自己紹介 『今の私・6か月後の私』	9:45	10:00	
3	局長講義 『学園の組織と沿革』	10:00	12:00	事務局長
	昼休み (車椅子操作がある為、動きやすい服装で参加)	12:00	13:00	
4	就業規則	13:00	13:30	海田部長
5	福利厚生・退職金共済	13:30	14:00	
	休憩・移動	14:00	14:10	
6	車椅子実技	14:10	14:50	理学療法室1 佐々木係長
	休憩	14:50	15:00	
7	学園紹介 利用者さんとの接し方	15:00	15:40	
8	施設見学 ゆうかり医療療育センター・耳納学園 千歳療護園・第二千歳療護園	15:40	17:40	上原所長
	休憩	17:40	17:50	
9	終礼	17:50	18:00	

※令和2年3月31日までに入職された方は、②からの参加となりますので、9時45分までに研修室へご集合下さい。

研修担当 法人事務局

令和2年度新任職員研修

第2回

令和2年10月26・27日(月・火)

13:00~18:00

会場：カンファレンスルーム

研修概要	内容	開始時間	終了時間	備考
1	オリエンテーション	13:00	~ 13:05	
2	理事長講義 「新たな時代における社会福祉法 ゆうかり学園の使命と役割」	13:05	~ 15:30	※
休憩		15:30	~ 15:40	
3	防災・防犯対策委員会について	15:40	~ 16:10	
5	苦情解決委員会について	16:10	~ 16:25	
休憩		16:25	~ 16:30	
6	今までの自分を振り返って 個人評価への記録	16:30	~ 16:35	
7	グループ討議・レポート作成	『今まで仕事に携わってきて』		
		① 説明	16:35	17:45
		② 自己紹介・役割分担決め		
		③ テーマの決定及び討議)		
④ レポート作成	17:45	~ 18:00		

※ 必須

研修担当 法人事務局

施設事業報告

- ・ ゆうかり医療療育センター
- ・ コアラ園
- ・ 相談支援事業所 夢の紀
- ・ 耳納学園
- ・ 千歳療護園
- ・ 第二千歳療護園
- ・ 久留米市東部障害者基幹相談支援センター

ゆうかり医療療育センター

医療部診療課 外来

《概況》

外来受診者の中で、入所前診察者は重症化の傾向にある。

療育前診察は昨年と同様、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動症、言語発達遅滞等の受診者が多く、1人あたりの診療時間は2時間程度要している。リハビリ実施計画書に基づく診察も行っていることから、診療予約日を早めに設定した。

千歳療護園・耳納学園入所者の診察もあり、スムーズに診察出来るよう情報収集を行い、医師との連携に心掛けた。

令和2年度 受診者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新患	26	8	14	18	20	24	19	18	15	14	12	25	213
再来	607	309	1,183	954	994	993	1,192 ※	1,454 ※	1,233 ※	1,018	1,061	1,224	12,222

※インフルエンザ予防接種者を含む

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の為、4月15日から5月末まで外来閉鎖して対応している。外来患者数は激減している。
- ・新型コロナウイルス感染予防策として、全員のマスク着用と体温測定を行い、2週間前の聞き取りを医師が行っている。
- ・発達障害児の新患予約状況は、11ヵ月待ちの状況にある。
- ・運動発達遅滞児の新患予約状況は2ヵ月待ちである。
- ・各種の申請書類診察が、年々増加の傾向であり、書類診察待ちの状況である。
- ・入所者の重症化に伴い、外来でガス滅菌器を使用しているが、その頻度は増加し、準備時間とコストは増しているが、感染防止に欠くことはできない。
- ・医療物品のコスト削減の為、在庫管理を行い商品見直しに努めている。
- ・新型コロナウイルス対応・災害対応の為に、必要な医療物品確保が必要であるため、備蓄倉庫管理を行っている。

医療部診療課 放射線

《概況》

- ・一般撮影は、月件数の偏りがあるものの、年間件数は例年より増加傾向である。
- ・透視検査は、通年と大差はなく、検査件数はほぼ同じだった。
- ・CT検査は、3D-CT や MPR 像（多断面再構成像）の作成依頼もあり、検査件数も増加傾向にある。
- ・骨密度検査は、検査件数は減少している。
- ・新型コロナ疑いの場合の CT 検査マニュアルを作成

2020 年度 放射線部 撮影件数

【各検査 比較】

検査月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
一般撮影	66	61	67	70	38	55	59	110	135	61	65	94	881
透視	7	6	7	7	8	6	7	6	8	7	7	7	83
CT	3	3	3	4	3	6	2	8	6	5	6	6	55
骨密度	0	1	6	0	0	0	0	4	0	1	0	0	12

各検査 詳細【一般撮影】

検査月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
病棟	39	34	43	56	21	38	37	30	47	32	38	63	478
外来	3	0	3	2	2	5	3	1	9	6	7	8	49
健診	病棟 B. D.	14	14	14	4	0	0	48	9	8	11	6	128
	耳・千 B. D.	9	12	6	6	9	8	9	28	15	15	8	132
	35 歳未満								51				51
	その他	1	1	1	2	6	4	10	3	4	0	1	10
一般撮影 月合計	66	61	67	70	38	55	59	110	135	61	65	94	881

※健診 その他；雇用時健診・委託業者健診・日中・短期 など

各検査 詳細【透視】

検査月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
ST チューブ入替	2	2	2	3	3	2	2	2	3	2	2	2	27
ED チューブ入替	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	3	3	37
膀胱瘻 入替	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	18
胃瘻 交換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
透視 各月合計	7	6	7	7	8	6	7	6	8	7	7	7	83

各検査 詳細【CT】

検査月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
頭部					1		2	1	2	4		1	11
副鼻腔（顔面）						1							1
胸部	3	2		2		1		2	3	1	6	2	22
腹部		1	2	1	2	2		2	1			3	14
胸腹部			1	1		2		3					7
CT 各月合計	3	3	3	4	3	6	2	8	6	5	6	6	55

医療部診療課 検査

《概況》

- ・本年度は、利用者様の年2回の定期健診、職員(35歳未満健診62名・夜勤者健診109名・パート職員健診3名)の健診は、予定通り行うことが出来た。
- ・インフルエンザウイルスについては、罹患者はみられなかった。
- ・ノロウイルス胃腸炎については、職員1名や職員の家族1名に罹患者がみられたが、利用者様には罹患者はみられなかった。
- ・マイコプラズマ感染症は、利用者様に1名みられた。
- ・病原大腸菌については、利用者様や職員にも陽性が確認され、入社時健診でも陽性が確認されたがその後陰性が確認された。
- ・迅速診断キットの使用数が減少したのは、例年に比べて感染症の罹患者数が少なかったためである。
- ・新型コロナウイルス感染症を含む発熱時の第一の検査である血算・炎症反応の検査機器を購入して頂いたため、今までより迅速で詳細な検査報告を実施することが出来た。

R2年 月	健診用検査			白血球数・CRP	血液生化学	検尿・検便	血液ガス分析	心電図	脳波	腹部超音波	迅速診断	外注検査
	6カ月	誕生月	外部・入園時									
4	22	24	1	40	24	22	1	20	4	3	11	86
5	22	25	0	47	22	15	17	19	1	1	7	80
6	19	20	0	30	21	7	0	19	2	4	4	77
7	16	16	3	46	25	15	3	21	1	2	1	78
8	18	25	1	55	28	29	1	21	2	6	2	142
9	15	15	5	46	34	27	0	15	2	10	3	95
10	25	21	18	37	26	25	19	35	4	3	0	98
11	23	22	2	47	25	19	0	22	2	5	2	95
12	25	18	2	48	23	27	1	16	2	3	0	121
1	15	17	0	39	19	29	1	17	1	2	0	86
2	23	19	1	47	33	24	5	20	0	6	1	144
3	18	13	11	41	33	15	12	22	0	10	1	124
計	241	235	44	523	313	254	60	247	21	55	32	1226

《概況》

医師の処方箋に基づき調剤を行った。令和2年度の処方箋枚数及び調剤数については下表の通りである。

① 令和2年度受付処方箋枚数及び調剤数

外来（千歳、耳納、その他）・病棟（おひさま寮、なかよし寮、ともだち寮）

		外来				病棟					
		臨時		注射		臨時		定期		注射	
月	日数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数
4	21	40	77	0	0	1111	1278	88	254	127	127
5	18	26	50	1	1	1026	1179	88	262	116	116
6	22	25	45	0	0	1076	1297	87	266	46	46
7	21	35	55	3	3	1254	1459	86	262	83	83
8	18	29	45	0	0	1108	1252	88	266	95	95
9	20	43	56	0	0	1159	1360	87	263	115	115
10	22	44	66	5	5	1181	1422	89	272	60	60
11	19	34	48	5	5	1107	1201	90	273	141	141
12	21	37	59	2	2	1130	1289	92	275	128	128
1	19	31	53	0	0	1049	1181	89	266	133	133
2	18	33	51	1	1	1078	1213	90	267	152	152
3	23	49	71	5	5	1298	2097	91	271	59	59
計	242	426	676	22	22	13577	16228	1065	3197	1255	1255

★吸入処方、外用剤でカウント

② 医薬品の安全使用のための研修会の実施

医療法に基づき、従業員に対し医療安全、医薬品・薬物に関する事故防止対策、特に安全管理が必要な医薬品などについてビデオ研修を実施した。

③ 薬事審査会開催

各科先生による新規採用医薬品の申請書提出に基づき審査を行った。
また、医薬品に関する安全性情報などの提供を行った。

④ 救急カートの点検

急変時に必要となる注射薬の期限をチェックし、期限の切れたものについては随時交換を行った。

⑤ 院内感染症対策委員会参加

⑥ 医療安全対策委員会参加

⑦ 給食委員会参加

《概況》

歯科医師の指導に基づき継続的な口腔管理の実施。

ゆうかり医療療育センター（おひさま寮・なかよし寮・ともだち寮）

耳納学園 千歳療護園・第二千歳療護園 外来

受診者総数は下記の通りである。

園内歯科受診者 2020年4月1日～2021年3月31日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
Dr	15	0	69	68	75	88	81	80	72	67	76	83	774
D.H	190	215	196	191	204	166	258	203	218	172	184	208	2405

Dr（歯科医師） D.H（歯科衛生士）

外来受診者数 2020年4月1日～2021年3月31日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	0	0	38	17	18	36	27	23	32	26	25	30	272

- ・新型コロナウイルス感染症により、耳納学園・コアラ園利用者様の集団検診、及び4月・5月の外来受診は中止となる。
耳納学園においては1年間を通し分散して口腔検診を実施した。
6月からは新型コロナウイルス感染症の予防策を講じ外来受診を再開した。
- ・全身麻酔下歯科治療の為、外来受診者4名を聖マリア小児歯科へ紹介した。
- ・千歳・第二千歳療護園においては、歯周病の悪化が見られ、利用者様の加齢と共に協力体制も希薄になり喪失歯の増加に繋がっているが、反面、吸引歯ブラシの導入により改善に繋がっている症例もある。
- ・今後も利用者様の口腔内環境を整え、齲蝕予防、歯周病進行防止、感染症予防にも繋がる口腔ケアを継続実施していく。

看護部看護課

《概況》

個々の力を一つに、みんなで前進、をテーマに、医療安全、感染症対策の強化。重症児者看護、介護の専門性を高め、地域支援事業の充実に努める。新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、いかに施設内での感染を防ぐか、全職員が一丸となって、感染対策に取り組み、意思統一化を図ることができた。

* 委託入院	久留米大学病院	9 件	聖マリア病院	6 件
	田主丸中央病院	7 件	飯塚病院	1 件

◆ 超重症児	7 名	◆ 準超重症児	12 名
◆ 気管切開者	15 名	◆ 鼻腔カテーテル挿入者	12 名
◆ 胃瘻チューブ挿入者	24 名	◆ 腎瘻、膀胱瘻	2 名

* インフルエンザ予防接種	131 名
インフルエンザ A 型罹患患者	0 名
B 型罹患患者	0 名
* 短期入所者（延）	12 名
* 日中一時支援利用者（延）	7 名

<実習生受入数>

新型コロナウイルス感染対策として受け入れを中止

① 令和 2 年度 在籍者数（月初日） 令和 2 年 4 月～令和 3 年 3 月

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
療養	111	110	110	110	111	112	113	111	112	112	111	112
医療	20	20	20	19	20	20	20	20	20	20	20	20
私的										1	1	2

② 令和2年度入退園者状況

令和2年4月1日～2020年3月31日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
措置入園						1						
退園				1								1
契約入園				1		2						
退園		1						1		1		
私的入園										1		1
退園												

③ 令和2年度年齢別入所者数

令和2年3月31日現在

年齢(歳)	0～6	7～12	13～15	16～19	20～29	30～39	40以上	計
措置		2	3	6				11
契約		4	3	3	22	17	70	119
私的							2	2

【なかよし寮】

- コロナ禍における新生活様式のため、本格的に寮のユニット化を進めた。同時に、感染症対策委員会を中心として、コロナ対応のマニュアル作成や感染症区域のゾーニングなどを行い、細やかな情報更新に努めた。その結果、年間にわたって流行性の感染症がほとんど発生せず、対策の有効性と持続化の重要性を知ることとなった。
- 教育委員会を中心として、新人教育と看護基準の見直しに重点を置いた。今後も指導内容の統一化を図っていく必要がある。
- 短期入所においては、学園の新型コロナウイルス感染症対策指針に沿って可能な限り受け入れを実施した。
職員全員が統一した対応ができるよう、情報伝達を図っていく。

【ともだち寮】

- 医療安全においては、インシデントレポートの提出については、常に呼びかけを行うことで意識が向上し、提出率があがっている。また、重大なアクシデント・インシデントレポートについては、早急に分析、対策、情報共有を行うことができている。
- 感染症対策においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ゆうかり

学園基本指針、感染マニュアルに従い、職員への指導、周知、情報共有を行った。利用者様の生活において、3密回避や居室対応など感染対策は継続的に行っていく。職員の家族感染が発生したが、寮内閉鎖など迅速に対応することができた。職員の研修会においては、新型コロナウイルス感染症マニュアルに従い、演習を実施、理解を深めた。利用者様に対し、感染症への理解や面会できないことへのストレスや、不安軽減のため医師に協力していただき、お話をしていただいた。利用者様の人権に配慮し、コロナ禍でも充実した生活が送れるように人権の啓発に努めた。

- 短期入所については、基本指針に従い、感染対策を徹底したうえで、受け入れた。
- 職場環境改善、利用者様へのより良いサービス向上のため、入浴用電動リフト、バスタブ、床走行リフトの導入に当たり、千歳療護園の見学や業者によるデモ研修などを行った。

【おひさま寮】

- 医療安全、感染症対策の強化について
今年度は新型コロナウイルス感染症対策に努めた。委員を中心とし、マニュアルの作成、ゾーニングを行い感染症発生時の対応や、環境整備（消毒・換気含む）対策を徹底した。カンファレンスにおいても全職員に周知した。
インシデント、アクシデント報告は情報共有し、特に重大アクシデントにおいては委員が中心となり医療安全分析用紙を使用し対策を行った。
インシデント記入の必要性の理解につながった。
- 地域支援事業の充実
今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため短期入所の受け入れ中止期間があった。また、現在も新型コロナウイルス対策として緊急時以外の受け入れは制限されている。利用ご家族へ負担をかけている状況である。

病類別入所者数

令和3年3月31日現在

病名		病名	
脳性麻痺	65	染色体異常	6
低酸素性虚血性脳症	2	脊髄破裂後遺症	1
副腎白質ジストロフィー	2	マーシャルスミス症候群	1
脳損傷後遺症	1	先天性眼球欠損症	1
頭蓋内出血後遺症	2	知的障害	3
化膿性髄膜炎後遺症	2	レット症候群	3
左癱性麻痺	1	急性脳症後遺症	1
滑脳症	1	インフルエンザ脳炎後遺症	1
てんかん性脳症	1	硬膜下出血後遺症	1
クラインフェルター症候群	1	頭蓋咽頭腫摘出術後下垂体機能不全	1
脳形成異常	1	猫鳴き症候群	1
ダウン症候群	2	乳幼児揺さぶられ症候群	1
右中頭蓋窩クモ膜胞	1	心肺停止蘇生後状態	1
麻疹脳炎後遺症	1	脳腫瘍手術後水頭症	1
脳炎後遺症	2	頭蓋骨早期頭蓋癒合	1
無酸素性脳症	2	頭部外傷後遺症	1
水頭症	3	超低出生体重児	1
精神発達障害	1	水頭症性無脳症	1
MCT 変異による甲状腺ホルモン輸送障害	2	先天性筋緊張性ジストロフィー症	4
難治性てんかん	1	筋強直性ジストロフィー症	1
脳出血後遺症	2	筋緊張ジストロフィー症	2
脳出血後遺症	2		

計 132 名

<出張関係>

- ◆福岡県身体障がい者施設協議会 令和二年度 第一回施設長・職員研修会
「コロナ禍における職員のメンタルヘルス及びモチベーション向上について」
令和3年3月27日 オンライン研修 介護士1名

《概況》

令和2年度は、育成部3寮のテーマに『礼(令)を重んじ、輪(和)をもって、ONE・TEAMを目指し、飛躍の年へ』を掲げた。行動指針として、感謝、協力、努力の気持ちを忘れず、規律を持って業務にあたり、心を読み取る『広い心』、前向きな『熱い心』、柔軟な『深い心』で利用者様に接し、信頼されるスタッフを目指すとして、それぞれの利用者様へ充実した毎日を過ごせるように心がけた。なかよし寮、おひさま寮、ともだち寮、それぞれの利用者様へ、個別支援計画に基づき、一人ひとりのニーズに対応し、満足して頂けるような支援を計画したが、新型コロナウイルス感染症対応の為、法人全体行事、3寮合同レクリエーション会の中止や寮内行事の縮小、又希望外出の制限など様々な対応により、利用者様へ十分な支援の提供が出来なかった。本年度、なかよし寮の日帰りバス旅行を実施する予定であったが、感染症対策の為、寮内でのレクリエーション、地域支援棟交流ホールでの食事会(外注弁当)に内容変更して実施した。新型コロナウイルス感染症対応の中、個別、及び小人数での対応、利用者様方が、楽しみ、希望、生きがいを持てるような行事(花祭り、端午の節句、七夕、クリスマス会、節分、ひな祭りなど)、各種のレクリエーション、グループ活動、小人数による希望外出を計画実施した。

新型コロナウイルス感染症対策の状況下、1年間の対応方法の経験を活かし、利用者様方へ楽しみ喜びの提供を次年度も継続的に支援する。

【なかよし寮】

(生活援助)

本年度は、コロナ感染対策の為、利用者様には思うように活動提供が出来ず、前半は殆ど活動を行えなかった。後半は、職員対応での生花教室、支援棟を使用しての昼食外出等を行った。

学校を卒業した利用者様には、全体活動(午前活動・午後レクリエーション)や個別活動(生花教室)・趣味活動(ゲーム・DVD鑑賞・写真撮影)等の内容を工夫して実施した。又、9月はなかよし寮単独での花火大会、3月には日帰り旅行の代わりに昼食を伴うお楽しみ会を開催した。

就学児の利用者様には、土曜日午後ドライブやセンター内行事(調理実習)等を行った。更に、特別支援学校との連携を密に行い、学業の向上と学校生活の充実に行えるようサポートした。

(センター外活動)

午前ドライブ支援棟昼食外出	1/28 (木)	5名
午前ドライブ支援棟昼食外出	2/15 (月)	5名
午前ドライブ支援棟昼食外出	2/24 (水)	5名
土曜午後ドライブ	月に2~3回	学童児

(センター内活動)

花祭り	4/ 4 (土)	全員参加
端午の節句	5/ 9 (土)	全員参加
七夕	7/ 4 (土)	全員参加
調理実習	8/11 (火)	5名
お楽しみ会	8/19 (水)	全員参加
なかよし寮花火大会	9/25 (金)	全員参加
お楽しみ会	10/ 4 (水)	全員参加
クリスマス会食事会	12/16 (水)	全員参加
クリスマスプレゼント渡し	12/24 (木)	全員参加
クリスマス演芸会	12/25 (金)	全員参加
成人の祝い	1/13 (木)	学卒者
節分	2/ 6 (土)	全員参加
ひな祭り	3/ 6 (土)	全員参加
お楽しみ会	3/17 (水)	学卒・卒業生
誕生会	第3土曜日	全員参加

(ボランティア・慰問) コロナ対策の為、中止

アレンジ教室	毎週木曜日	希望者
生花教室 (7月より職員対応で開催)	毎月第3火曜	希望者
学童児生花教室	6月~1月の第1土曜日	3名
音楽教室	2~3ヶ月の第2金曜日	11名

【おひさま寮】

(生活援助)

おひさま寮ではコロナ禍の中、感染症対策に取り組みこの一年間は制限された活動となった。

園外活動については、慎重に判断され中止の日が続いた。園内活動も居室対応となり、小規模的活動を余儀なくされた。各ユニットに分かれ個別支援プランのアップ

ローチは、不十分なものとなった。面会等の制限については、短時間での窓越し面会、リモートの活用で対応をした。また、法人行事の盆踊り花火大会、運動会の中止に伴い、寮単位での花火大会、ハロウィン秋祭、おたのしみ会を実施し、利用者様も楽しく過ごす事ができた。緊急事態宣言解除により2月下旬から、車内限定でのドライブ外出を実施し、少しずつではあるが前向きな取り組みとなった。

コロナ対策として、各居室及び寮内区分けによる消毒の徹底に取り組んだ。制限が続く環境の中で、利用者様が健康で安全に安心して、楽しく生活して頂けるよう支援した。

◎ 慰安・娯楽

(園内・外活動)

花祭り	4/ 8 (水)	(全員)
端午の節句	5/13 (水)	(全員)
七夕	7/ 1 (水)	(全員)
茶話会	8/26 (水)	(全員)
秋祭り(病棟花火大会含む)	9/ 9 (水)	(全員)
おたのしみ会	11/ 4 (水)	(全員)
茶話会	11/18 (水)	(全員)
クリスマス、食事会	12/16 (水)	(全員)
茶話会	1/27 (水)	(全員)
節分	2/ 3 (水)	(全員)
ひな祭り	3/ 3 (水)	(全員)
ドライブ外出	1/30(水)2名 2/ 5(金)2名 2/ 6(土)2名 2/12(金)2名 2/13(土)1名 2/19(金)2名 2/20(土)1名 2/26(金)2名 2/26(金)2名 2/27(土)2名 3/ 5(金)1名 3/ 6(土)2名 3/12(金)2名 3/13(土)2名 3/19(金)1名 3/26(金)2名 3/27(土)2名	

◎ その他主な活動

毎月第3水曜日誕生会(全員参加)	集団レクリエーション(月3回)
理容(2ヶ月1回程度)	音楽活動(日常的)
居室内レクリエーション(月2回)	

【ともだち寮】

(生活援助)

今年度は新型コロナウイルス感染症の対策として、居室単位でのグループ活動を保育士を中心とし、散歩、タッチケア、生花教室、午前ドライブを実施した。希望外出については、新型コロナウイルス感染症対応のため実施できなかった。2月より午後のドライブを実施し、ドライブの中で利用者様の希望するおやつ等の買い物を、代理にて購入後、支援棟 ADL ルームにて楽しみを提供した。寮内においては、カラオケ、散歩、風船バレー、足湯等の活動を実施した。

利用者様同士の会話の中で、ドライブ外出の話が話題になるなど、とても楽しみにされていた。新型コロナウイルス感染症対策で生活が制限される中で、今後も楽しみとしてドライブ外出を継続し、環境に変化をつけることで楽しんで生活して頂けるように支援を行う。

(園外活動)

- | | |
|------------------|-----------------------|
| (1) 午前ドライブ外出 | 年間一人 5 回程度参加 |
| (2) 午後ドライブ・買い物外出 | 年間一人 2 回程度参加 ※2 月より実施 |

(全体行事)

- | | | | |
|-------------------|-----------------------|-----|-------|
| (1) 花祭り | 4/ 8 | (水) | 全員参加 |
| (2) 端午の節句 | 5/13 | (水) | 全員参加 |
| (3) 七夕 | 7/ 8 | (水) | 全員参加 |
| (4) 寮内花火 | 8/26 | (水) | 全員参加 |
| (5) 食事会 | 10/ 7 | (木) | 全員参加 |
| (6) お楽しみ会 | 1/ 4 | (水) | 全員参加 |
| (7) クリスマス食事会 | 12/16 | (水) | 全員参加 |
| (8) クリスマスプレゼント・演芸 | 12/24 | (木) | 全員参加 |
| (9) 節分 | 2/ 3 | (水) | 全員参加 |
| (10) 雛祭り | 3/ 3 | (水) | 全員参加 |
| (11) 誕生会 | 毎月第三水曜日 | | 全員参加 |
| (12) グループ活動 | 毎週 月, 火, 水, 木, 金 (午前) | | 4 名参加 |

<実習生の受け入れ 3寮分>

※下記予定分、新型コロナウイルス感染症対応の為、すべての受け入れを中止とした。

・筑紫女学園大学	6名	・精華女子短期大学	5名
・中村学園大学短期大学部	6名	・久留米大学	6名
・福岡こども短期大学	4名	・香蘭女子短期大学	10名
・福岡女子短期大学	4名	・九州大谷短期大学	4名

<出張関係>

- R2. 12. 10 令和2年度全国重症心身障害児者施設職員研修会
『保育士・児童指導員（療育職員）コース』（Web研修会）
ゆうかり医療療育センター会議室 保育士1名
- R2. 12. 11 福岡県相談支援従事者現任研修(他3日)
春日市 保育士1名
- R3. 2. 10 令和2年度災害福祉セミナー（動画視聴型）
ゆうかり医療療育センター会議室 育成員1名

《概況》

2020年度は心理療育部として、一般生活援助業務との一部兼務で心理的援助活動を業務指針に基づき展開した。主な内容は、利用者の日常生活の観察、触れ合い並びに治療・検査場面を通じて心理的関係性をつくることである。また重症児・者に対しては、個としての尊重を基本として業務を行った。

地域支援としては、子どもの発達や母親の子育てなどの心理相談の要請に対し、市町村と連携・協力しながら、子育て・家族関係・就園・就学、そして発達についてなど心理支援を実施した。それに伴い、外来診察及びコアラ園利用案内さらに来所にての心理相談や外来での心理療育につなげるケースも増加した。保育所等への支援については、定期的な巡回相談が始まった地域においては、それ以前に比べ、小学校への就学委員会での保護者様と学校のよりよい共通理解が図られ、就学案内がスムーズになったとの好評価も得ている。さらに、その他の地域においても、個々の対象児ごとに必要に応じて療育場面の見学や関わり方の方向性など、それぞれの保育所等との情報交換もニーズに応じて行った。

《心理療育・相談援助の内容》

「落ち着いているか」「安心しているか」を治療の基点として「人と関われるか」「関わりは適切か」更に「楽しんでいるか」「喜んでいるか」との相互機能関係により個々のニーズに応じ、絵画表現療法、箱庭療法、抱っこ法・タッチケア、遊戯療法・行動療法、カウンセリング、感覚統合法、知育活動、音楽療法などを施行した。心理的関わりの中で、寄りかけられる存在として、日常の触れ合い、遊び、介護、その他を通じての信頼関係作りが主要テーマである。

地域における相談活動においては、母子並行面接を基本として、限られた時間の中でいかに波長を合わせ、行動・状況の背景理解を図り、悩み・心配・不安に寄り添い、より具体的対応や共感的援助をしていけるかを目標に、心理判定並びに相談を行った。

【なかよし寮】

- ① 遊びを媒介とした自己表現（投影・情緒解放）
- ② 発達援助＝知育活動（情緒安定を基盤とした認知学習）・感覚運動
- ③ 面談援助 解決→解消（うなずく・聴く・心の汲み取り・共感・発散・個としての尊重）
- ④ 困った行動（表現として捉える）癖・攻撃・熱発・下痢・身体表現等の理解

- ⑤ 音楽療法（集団/個別）
- ⑥ 散歩（寮内・園内・園外）
- ⑦ タッチケア・マッサージ
- ⑧ 知能検査・発達検査
- ⑨ 介護支援

【おひさま寮・ともだち寮】

- ① 多動・興奮行動への対応 散歩法 ―エネルギーの解放―
- ② 面談（心のエントツそうじ・表出能力に応じた受けとめ）
- ③ 音楽療法（集団/個別）
- ④ 介護支援
- ⑤ タッチケア、絵本、絵カード、語りかけなど「いい表情づくり」活動
「集団の中での個としての尊重」
- ⑥ 知能検査・発達検査

【児童発達支援センター コアラ園】

- ① 発達支援（個別・集団）
- ② 遊戯療法（感情表現・認知発達・感覚運動調整）
- ③ 音楽療法（集団/個別）
- ④ 母親等へのカウンセリング（子どもの理解～プラス面へのスポットライト）
- ⑤ 行事（計画立案・実施）
- ⑥ 就学・就園（保育園等）相談援助
- ⑦ 知能検査・発達検査

【外来療育】

心理療育部における外来療育は、増加しつつある発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害、学習障害など）に対する心理的発達支援を行うと共に、心因反応としての神経性習癖（チック、吃音、緘黙など）や、不登校を含む子育て不安などへの精神保健的相談・療育を行った。それらの中に、診察待ち期間の療育・相談、コアラ園の前段階としての外来での個別療育のケースなどを含めた多様な外来療育のニーズに対応させていただいている。

本年度は、新型コロナウイルス感染症自粛期間4月15日～5月末日まで、外来療育を中止した。

《治療対象児・者》

日常の行動観察、生育歴、身体障害の程度、家庭環境などから、精神的サポートの必要性和質に応じて、下記人数に対し、定期的あるいは不定期的に行った。心理的対応の特殊性から、臨時・緊急の場合も多く、他職種との連携をもとに対応を行った。

※短期利用者を含む 単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	計
治療対象児・者 ※	44	41	47	132

《音楽療法対象児・者》

入所においては表出能力に困難のある利用者を優先的に、必要性に応じて下記人数に対して行った。コアラ園・外来においては、医師の指示または保護者からの要望に応じて対応を行った。

単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	コアラ	外 来	計
音楽療法対象児・者	34	33	36	11	16	130

《心理検査》

知能検査と発達検査は定期的に行い、その他の検査、評価は必要に応じて行った。本年度は、特別児童扶養手当・障害者福祉手当の申請に伴う検査や、保護者からの検査依頼が多かった。実施数は下記の通りである。

単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	コアラ	外 来	地 域
発達検査	9	11	18	0	3	0
知能検査	9	1	7	4	25	8
性格検査	0	0	0	0	0	0

《地域支援》

地域支援事業は市町村の母子保健活動と連携して展開してきたが、保育所等とも情報交換・共通理解に努め、相互の子ども支援に有効に機能した。今後も地域の信頼に適確に応じていく事業展開を目指したい。

2019年度より、久留米市において、市役所での乳幼児健診が追加され、年2回、

土日の日程で行われた。

※災害や、新型コロナウイルスの影響で、実施中止となった日程がある。

朝倉市	1歳6ヵ月児健診		計10回 対象者358名うち相談者34名 別件3名	
	3歳児健診		計16回 対象者362名うち相談者52名 別件11名	
	朝倉・杷木健診		計4回 対象者60名うち相談者12名 別件1名	
	にこにこども相談		計8回 相談者28名	
うきは市	1歳6ヵ月児健診		計4回 対象者156名うち相談者15名 別件3名	
	3歳児健診		計65回 対象者192名うち相談者19名 別件2名	
	すくすく発達相談		計12回 相談者35名	
	保育所等巡回相談		計31回	
久留米市	田 主 丸 町	1歳6ヵ月児健診	計3回 対象者30名うち相談者4名	
		3歳児健診	計3回 対象者30名うち相談者7名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計2回 相談者5名	
	北 野 町	1歳6ヵ月児健診	計3回 対象者30名うち相談者4名	
		3歳児健診	計3回 対象者30名うち相談者7名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計2回 相談者4名	
	三 漕 町	1歳6ヵ月児健診	計3回 対象者34名うち相談者11名	
		3歳児健診	計3回 対象者33名うち相談者14名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計1回 相談者3名	
	城 島 町	1歳6ヵ月児健診	計3回 対象者22名うち相談者4名	
		3歳児健診	計3回 対象者28名うち相談者8名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計2回 相談者3名	
	南 部	1歳6ヵ月児健診	計4回 対象者46名うち相談者11名	
		3歳児健診	計5回 対象者56名うち相談者8名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計1回 相談者2名	
	市 役 所	1歳6ヵ月児健診	計0回	
		3歳児健診	計1回 対象者12名うち相談者3名	
	北筑後保健福祉環境事務所		乳幼児発達診査事業	計3回 相談者8名
	その他の相談対応		電話	24件
			メール	0件
			来所	33件
			訪問	0件
	診察案内※1		81名 (再診含む)	
	わいわい学級	8回参加/全18回	のびのび相談会	5回
外来利用児総数	63名	外来心理療育回数	1981回	
情報提供書作成数※2			108件	

※1：年度内に診察に至った方のみ（年度内に診察の予約をした方は省く）を計上。
（診察予約は、すでに令和4年3月まで入っている状況）

※2：①診察に案内した対象児の発達状況や経過を記入した医師への情報提供書。

②保護者への心理判定報告書。

③就学に向けて、就学委員会への（保護者を通して）情報提供書。

④それぞれの寮への心理判定報告書。

⑤転勤等の異動による、他の専門機関への情報提供書（保護者渡し）。

《実習生関係等》

公認心理師の国家資格を定めてその業務の適正を図り、もって国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的として、平成29年9月15日に、公認心理師法が施行された。それに伴い、大学院のカリキュラムが変更になったことにより、厚生労働省と文部科学省から、公認心理師養成に係る実習生の受け入れの協力依頼を受けて、2019年度より、久留米大学心理学研究科臨床心理学専攻（大学院）の学生の実習指導を行っている。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策として、現場での実習に変えてDVDを制作し対応。

《参加出張》

・令和元年度 久留米市乳幼児健康診査あり方検討会 （12月22日）

・令和元年度 うきは市乳幼児健診実務者会議 （12月14日）

※上記の新型コロナウイルス感染症予防対策自粛期間中は、部内の勉強会や遊具の修理や、新たな遊具の制作を行った。

《概況》

医療訓練部門における訓練は、すべて医師の処方に基づき個別で実施し、診療報酬は脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）および運動器リハビリテーション料（Ⅰ）で算定請求した。入所部門において6月、9月、12月、3月、リハビリテーション総合実施計画書を作成した。計画書の説明や交付手順は郵送形式とし、返信用ハガキで同意の返事があった方について、リハビリテーション総合計画評価料を算定した。

コアラ・外来部門は、土曜日の利用者など診察の機会そのものが取れない方もいるため、リハビリテーション総合実施計画書の説明をセラピストが行い、その内容を主治医に確認していただき交付した。

毎月第2火曜日に医師、看護師、保育士、心理士、栄養士および訓練士（PT・OT・ST）のスタッフが出席して、リハビリテーション部門カンファレンスを開いている。今年度は、新型コロナウイルスの影響で11月と12月にしか開催できなかった。内容として、各寮の利用者の個別カンファレンスを実施した。

訓練は、利用者の潜在能力や可能性ならびにモチベーションなど多方面から対象児（者）のニーズを見極め、個別に計画を立てて行なうものである。特に、乳幼児期を担当するスタッフは、成長や発達全体を深く理解し、幅広く支援する能力が必要である。そこで、児童発達支援センター契約者に対して、発達全体の手助けおよび保護者の指導を目的に、PT・OT・STが密に保護者とコミュニケーションがとれるよう集団でのリハビリテーションではなく、個別のリハビリテーションで対応した。

関節の拘縮や変形、異常筋緊張、呼吸問題など生活全般に問題を抱えている重度の障がい児（者）に対して、独自の姿勢保持具を作製し活用するとともに、他部署の職員に対しても姿勢管理や呼吸理学療法（スクイーピング）・移動・移乗・食事介助などの方法について、イニシアチブを取りアプローチすることで利用者のQOLの向上につなげた。さらに摂食・嚥下機能に問題のある利用者に対して、嚥下食を導入し、安全で楽しい食事時間の提供を行っている。

各部門の報告は以下に示す。

● 理学療法

【なかよし寮】

対象45名に対し、理学療法士が2～4名（兼任・年度途中からの育休者含む）で個別に実施し、利用者1名当たりの訓練回数は週1～4回、年間訓練実施単位数は7,185

単位であった。

対象児（者）の疾患は、脳性麻痺などの中枢性運動障がいを中心として、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいの重複、精神運動遅滞、ダウン症候群、筋ジストロフィーなどである。

訓練内容は、個々のニーズやレベルに合わせた目標を設定し、基本動作訓練、移動動作訓練、筋力増強・持久力訓練、関節可動域（以下 ROM）訓練、日常生活動作（以下 ADL）訓練などを実施した。

今年度は新型コロナウイルス感染予防の一環として、本館訓練室の使用を控え、訓練室に備え付けの訓練用機材は使用できなかった。しかし、本館廊下や屋外での歩行・車椅子駆動あるいは自転車駆動などの機会が増え、持久力・筋力・ROM の維持・向上を兼ねた移動動作訓練が特に充実した。自力移動が困難な利用者の訓練は、身体機能の維持・向上を図ることを中心に行い、屋内の行動範囲の縮小に応じて屋外散歩や日光浴、屋外に敷いたマット上での ROM 訓練などの試みを取り入れた。

学卒者の中には、身体機能の低下がみられ、起き上がりや車椅子移乗などの ADL が自力では困難となる症例があった。この症例に対して園内後見人で話し合い、急激な機能低下を避けるため ADL を一部介助にて支援することとなり、介助方法の情報提供を行った。

気管切開を施行している一部の学童児は、屋内での自転車の練習を楽しむようになり、運転の上達だけでなく持久力の向上が認められたため、Dr・看護課と相談した上で、制限時間を設定して屋外の自転車駆動や公園の遊具を楽しむことができるようになった。

卒園が予想される学童児において、卒園後の生活環境を想定した基本動作訓練や屋内外での杖歩行・車椅子駆動練習、また、電動車椅子を利用して学園外の歩道を運転し交通マナーの学習・実践練習に取り組んだ。

さらに、全利用者に対し車椅子や装具・姿勢保持器具などを随時検討・作製し環境面の支援も行った。

【おひさま寮】

対象 41 名に対し理学療法士 2～3 名で実施し、年間訓練実施単位数は、5,955 単位であった。

対象児（者）は、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいを重複している人が多く、生活のあらゆる場面において介助が必要である。ベッド上でも非対称な姿勢になることが多く、姿勢の管理や変形・拘縮を防ぐことが重要である。また、近年は加齢に伴い呼吸機能、嚥下機能の低下が見られる利用者も多く気管切開、胃瘻造設術を施行された方が増加している。人工呼吸器を使用している利用者もいる

ため、日常のリスク管理は非常に重要となっている。

訓練内容として、変形・拘縮の予防のため ROM 訓練を中心にマッサージ、リラクセーションを行なった。また、人工呼吸器や気管切開の利用者の呼吸状態の安定を図るためにポジショニング、排痰や呼吸介助（スクイーミング）などの理学療法を行った。動くことができる利用者には床上でのローリング移動や器具を使用しての歩行を積極的に行なった。毎年 1 回、個人の身体機能面の評価として ROM の計測を実施し、前年の数値と比較検討し利用者の生活に活かされるよう取り組んだ。

人工呼吸器を使用している利用者や感染症の利用者は、居室から出る機会が少なくいろいろな面で活動範囲が制限されているため、人工呼吸器を装着した状態で車椅子散歩や感染症利用者には外気浴などできる活動範囲内で楽しみを見つけ実施した。

姿勢管理に関して、個々の利用者に適合したプロンキーパー・頭部保持クッションや側臥位保持用クッションを作製し、リラクセーション・排痰・側彎変形・拘縮の進行予防に努めた。病棟職員に対して、各場面に応じた姿勢について寮内研修、個別的な指導を行った。

【ともだち寮】

利用者 47 名に対し理学療法士 2～3 名（内 1 名は外来・コアラ園と兼任）で行い、年間訓練実施単位数は 8,198 単位であった。対象児（者）の疾患は、脳性麻痺や水頭症、化膿性髄膜炎後遺症などの中枢神経系の異常による運動障がいおよび知的障がい、染色体異常などであった。

今年度は新型コロナウイルスの影響により感染症予防のため外出自粛にともなう利用者の活動範囲の制限が余儀なくされた。昨年度よりベッド上で過ごされる時間が延長し、心身のストレスから身体の不調や腰痛を訴える利用者が多くみられた。

リハビリテーションの内容は四肢の ROM 訓練やリラクセーション、歩行や車椅子駆動などの自力移動訓練を中心に行なった。特に今年度みられた身体の不調や腰痛を訴える利用者に対して、ベッド上でクッションを使用し安楽な姿勢の検討に取り組み症状の改善に努めた。また、ベッド上や車椅子で長時間、同一姿勢で過ごされる利用者に対し、午前か午後にベッドや車椅子から必ず降りる時間を設定した。さらに、他職種や夜勤者と連携し就寝時のポジショニングを再検討し、睡眠の質の向上を促し疲労回復やストレス解消につながるよう努めた。また、四肢の ROM や筋力などの身体機能の低下の予防として毎朝ラジオ体操を取り入れ、健康な身体づくりのために自発的に身体を動かす時間を設定した。

新型コロナウイルスが収束し、以前の日常生活が取り戻せたとき、変わらない安心で安楽な日常生活が送れるように、身体機能や運動能力、QOL の低下の予防に取

り組む1年であった。

● 作業療法

【なかよし寮】

対象者45名に対して、なかよし寮担当作業療法士3名（コアラ・外来兼任1名）が週1～3回個別で行い、年間訓練実施単位数は7,809単位であった。

対象児（者）の疾患は、脳性麻痺などの中枢性運動障がいを中心として、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいの重複、精神運動遅滞、ダウン症候群、筋ジストロフィーなどである。

訓練内容は、身体機能面（特に上肢機能）の向上および維持を目的に、ROM訓練やリラクセーション、玩具や感覚遊び、作業活動を媒介としたアプローチを行なった。また、身の回りの動作の向上を目標に周辺環境の調整も行い、直接的かつ反復した取り組みを行った。退園が予想される利用者には、地域支援棟のADL室を利用し、インスタントやレトルト食品を使った簡単な昼食作りや、浴槽の出入りの練習などを行った。また、部屋に一人で過ごす体験も行った。

本年度は特に新型コロナウイルスによる休校や食堂での訓練となり、行動範囲が縮小しストレスの増加が予測されたため、屋外での活動、イベント的な活動（運動公園への散歩や巨大シャボン玉作り、大縄、水風船、制作活動など）を多く取り入れた。

3寮合同のグループ活動は実施できなかつたため、本年度は個別での対応として前年度の活動を継続し、畑で野菜の栽培から収穫までを体験し、過程を楽しんでいただいた。

【おひさま寮】

対象42名に対し、作業療法士3～4名（兼任含む）が週1～4回個別で実施し、年間訓練実施単位数は9,124単位であった。対象児（者）の疾患は、脳性麻痺や水頭症などの中枢神経系の異常による重度の運動機能障がいや重度の知的障がいの重複などであった。視力障がいや嚥下障がい、加齢にともなう身体機能の低下や変形・拘縮など、それぞれ多岐多様な問題を抱えており症状も重度化している。また、人工呼吸器での呼吸管理や経管栄養が増えており、リスク管理は非常に重要である。

訓練内容として、身体機能やADLの向上または維持、精神面の安定を目的にROM訓練、ADL訓練（食事動作）、集団活動、感覚訓練（スイングなど）を行った。また、寮内での生活が中心となっている利用者に対し、屋外への散歩を行うことで環境の変化による感覚的な刺激を経験し、四季それぞれの季節を感じてもらった。特に人工呼吸器、感染症の利用者は、居室から出る機会が少ない現状であったため、PT・STと合同で人工呼吸器を使用した状態で車椅子移動や感染症で活動制限がある利

用者も可能な範囲内で楽しみ活動（音楽療法、日光浴、スノーズレンなど）を実施した。

また、寮内での活動として、その時期にちなんだ壁絵を作成した。セラピストが介助しながらできる範囲で作業に参加してもらい、全員で一つの作品を作り上げ、居室や多目的ルームに展示した。

【ともだち寮】

対象 47 名に対し、作業療法士 4 名（兼任含む）で週 1～3 回実施し、年間訓練実施単位数は 9,993 単位であった。対象児（者）の疾患は、脳性麻痺や水頭症、化膿性髄膜炎後遺症などの中枢神経系の異常による運動障がいおよび知的障がい、染色体異常などであった。年々、加齢に伴う身体機能の低下や変形・拘縮もあり、ADL 動作の低下が見られている。

訓練内容として、身体機能や ADL 動作、認知機能の維持および向上、情緒の安定やリラクゼーションを目的に、ROM 訓練や食事訓練、感覚遊び、制作活動、集団活動などを行なった。

個別活動として、四肢の ROM 訓練やリラクゼーション、パソコン操作など個々のニーズに合わせた様々な活動を行い、制作物を掲示することで利用者の楽しみや達成感、他者からの称賛などを通して自己実現につなげてきた。

集団活動では、病棟外活動として利用者同士との交流を促すため、各病棟の利用者が集まって OT 集団活動を計画していたが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、病棟外で利用者同士の交流を行うことができなかった。

病棟内の活動は、楽しみの共有やストレス発散などを目的とし、音楽療法士と合同で歌遊びや楽器遊びを行なった。また、保育士と合同でオイルマッサージやアロマオイルを用いた活動などを通し、他職種と連携しながら利用者同士の交流や楽しみの共有、ストレス軽減に努めた。

● 言語聴覚療法

【なかよし寮】

利用者 45 名に対し、言語聴覚士 1～2 名（5 月より 2 名体制）が必要に応じて週に約 1～2 回実施した。年間訓練実施単位数は 5,579 単位であった。

対象児（者）の疾患は、脳性麻痺などの中枢性運動障がいを中心として、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいの重複、精神運動遅滞、ダウン症候群、筋ジストロフィーなどである。

重度の知的発達の遅れが見られる利用者に対して、主にスキンシップ、タオル遊び、歌遊び、音遊び、楽器遊び、絵本の読み聞かせなど、遊びを通した楽しい雰囲気

気で、聴覚・視覚・触覚などさまざまな感覚を用いた関わりを行い、感覚・認知・コミュニケーションにおける理解面・表出面（表現方法）の発達を促した。

言語発達の遅れを認める利用者に対して、絵本の読み聞かせや音読、および絵カードなどを用いた呼称やマッチング、読解や説明課題、書字課題、構文課題などといった机上課題のほか、お絵かきやぬり絵、パズルなど遊びを通じた認知機能へのアプローチを行なった。また、オセロや卓上ゲームなどでのやりとり遊びなど、各利用者の発達段階に応じた内容で言語機能とコミュニケーション能力の発達を促した。

発声発語器官の麻痺や運動制限などによる発声発語障がい認める利用者に対し、発声発語器官を中心としたリラクゼーションや運動、また、発声訓練や音読などの構音訓練を行った。

摂食嚥下機能障がい認める利用者に対し、口腔器官への刺激入力やマッサージなどの間接訓練、および食物を用いた直接訓練、咀嚼訓練などを行った。その結果、摂食機能の向上が見られた学童児において、令和3年4月より学校給食の摂取が開始される予定となるなど、QOLの拡大につなげることができた。

また、利用者それぞれの機能、能力に加え、保護者や利用者自身の要望などを考慮しつつ、他職種と連携して安全かつ利用者が満足できるような食形態や介助法を検討した。

令和2年度は、新型コロナウイルスの流行による感染防止対策として、これまで主に使用していた本館訓練室が使用不可となり、主な訓練の場を食堂に移した。そのため、使用する教材や機材の制限や、インターネット環境の制限など、訓練環境に大きな変化があった。また、日常生活においても外出や面会の制限など利用者にとって特にコミュニケーションの機会が失われがちな1年となった。そのような中、対スタッフや利用者同士のコミュニケーションを積極的に促すため、ゲームやフリートークなどを多く取り入れるなど訓練内容を工夫して取り組んだ。

【おひさま寮】

利用者42名に対して言語聴覚士延べ4名（兼任や育休からの年度末復帰者含む）で週1～3回個別に実施した。年間訓練実施単位数は5,850単位であった。

対象の病名・障がい名としては、脳性麻痺、精神（発達）遅滞などを中心とした身体障がいと知的障がいを併せ持つ重度の重複障がいである。

訓練内容は、口腔機能訓練（口腔とその周辺ケアや活性化を含む）、摂食嚥下訓練、発声発語器官に対して筋刺激訓練やマッサージ、ストレッチ、リラクゼーション、構音訓練、言語発達を促す訓練、コミュニケーション訓練、音声や音楽を用いた聴覚的な刺激による訓練などを行った。

摂食嚥下に関して、広く摂食嚥下に関係する器官に対しての感覚訓練、筋刺激訓練、マッサージ、ストレッチ、脱感作や味覚学習などの口腔内感覚の改善。食物を直接用いない間接嚥下訓練、摂食・嚥下機能そのものの維持・改善訓練。介助法の改善、食形態の調整、頸部や体幹の座位姿勢の調整、他職種に対して情報の伝達などを行った。また、これらを通じて摂食・嚥下機能の維持および向上を行い、安心して快適にスムーズに食事ができるための支援を行った。

また、摂食嚥下リハビリテーション学会基準に基づいた中間のトロミのお茶について周知し使用を開始した。それに併せてムセの軽減のための手法として、食事とトロミのお茶を交互に嚥下して喉をスッキリさせながら快適に食事をする交互嚥下について周知した。また、基準の食形態の食事をさらに個別の利用者に合わせて調整する手元調理について他部署に周知することで利用者のムセを軽減し、快適に食事できるよう支援した。

おひさま寮の最重度の心身障がい児（者）に対して、リラックスした楽しい関わりの中で、心地のよいスキンシップなどの接触刺激・聴覚的刺激・視覚的刺激や身体的感覚などを充足させるアプローチを通して、心身が満たされ、ゆったりと落ち着くことができるような関わりを持ち、感覚・認知・理解面の成長も促した。

iPad やパソコンなどの機器を用いて、重度心身障がい児（者）でも楽しめ使用可能な機能を使って発達を促し生活の充実を図った。

呼吸器系障がいに対して、排痰、口腔内清掃やマッサージなどによる口腔器官の活性化を行った。呼吸器や関連する器官の環境を整え、できる限り現在の状態を維持または改善して穏やかに生活できるよう支援を行った。

【ともだち寮】

利用者 47 名に対し、言語聴覚士 2～3 名（1 名はコアラ外来との兼任）が必要性に応じて週に約 1～3 回個別にて実施した。年間訓練実施単位数は 5,787 単位であった。

対象児（者）の疾患は、脳性麻痺や水頭症、化膿性髄膜炎後遺症などの中枢神経系の異常による運動障がいおよび知的障がい、染色体異常などであった。

訓練内容は言語面に関して、表出が困難な利用者に対し代償手段の活用として、コミュニケーションボードの練習やパソコン・スイッチの使用を行った。また、今年度は新型コロナウイルスの影響により、感染症予防による利用者の活動範囲の制限があった。そのため、室内で可能な余暇活動としてパソコン操作を通し平仮名学習などのゲーム操作や、保護者宛てに手紙作成などの活動を行った。

摂食・嚥下に関して、直接的な摂食訓練のほか、介助法の改善、姿勢の調整、食形態の調整、使用する食器具の検討などを行い、食形態の変更 2 名、新しい自助具の使用で 2 名が改善された。誤嚥性肺炎後の利用者には集中的に口腔ケアなどのア

アプローチをし、介助方法を病棟スタッフへ伝達し誤嚥性肺炎の再発防止に力を入れた。経管栄養の利用者へは口腔機能の維持や肺炎予防を目的とした口腔ケアや顔面マッサージなどの間接的訓練を行った。

音声言語面に関して、構音訓練や口腔体操を通して発声発語器官の運動を実施した。また、音楽療法との合同訓練により、歌などの発声を楽しみながら呼吸機能、発声・発語機能の維持および向上に努めた。

『コアラ園及び外来』

● 理学療法

対象 80 名（契約利用者 4 名、外来利用者 76 名）に対し、外来担当理学療法士 2 名を中心に実施し、利用者 1 名当たりの訓練回数は週 1～2 回、年間訓練実施単位数は 4,133 単位であった。

対象児（者）は、早産・低出生体重児、脳性麻痺による重症心身障がいや肢体不自由児、精神運動発達遅滞、ダウン症候群など多岐にわたり、年齢も 1 歳の幼児から成人までと幅広い。

以下年代別に取り組みを報告する。

○乳幼児期から学童期

運動発達促進や基本動作能力獲得を目的とし実施した。対象児の興味・関心を引くような遊びを提供する中で寝返り・座位・立ち上がり・歩行などの基本動作の向上や家庭・学校・施設など各環境における ADL 向上・応用動作へのアドバイスに努めた。また、必要に応じて自助具や姿勢保持用クッションの作製、福祉機器（車椅子・ウォーカー・装具）の提案・作製し、身体機能面の向上だけではなく、発達が促しやすい環境づくりや QOL の向上に努めた。

○青年期から成人期

運動能力の維持向上・変形拘縮などの二次障がいの予防、介助者の介助量軽減などを個々のニーズに合わせた目標に応じ実施した。より複雑化してくる運動の質の向上に対し継続的な運動指導を図りつつ、能力だけでなく各学校・施設・サービス等の環境調整・対応に重きを置き、本児や保護者、関係者（学校教員、施設職員など）への情報提供を行ないながら実施した。また、重症度に応じて家庭や施設内での姿勢ケア実施のためクッションを作製し、使用方法を指導したのちに提供した。生活上必要不可欠である車椅子に対しても細かな調整や修理・新規作製の促しなど、より充実した生活を送っていただけるように努めた。

○耳納学園の利用者

運動能力の維持のため定期的なリハビリテーションを実施した。疼痛の軽減および ADL 面を中心に取り組み、マッサージ・ROM 訓練を中心に生活に必要な動作を取

り入れ練習した。

● 作業療法

対象 209 名（契約利用者 49 名、外来利用者 160 名）に対し、作業療法士 3 名を中心に訓練を実施した。利用者 1 名当たりの訓練回数は月 1～5 回、年間訓練実施単位数は 5,568 単位であった。

対象児（者）は発達障がい（自閉症スペクトラム障がい、注意欠如・多動症）、脳性麻痺、神経筋疾患、さらに精神運動（発達）遅滞など多岐にわたり、対象者も年々増加傾向である。

訓練内容として、トランポリンやボールプール、スイングなどの感覚遊具遊び、縄跳びや鉄棒などの運動遊び、パズルや運筆などの机上活動や巧緻動作、ままごとやゲームを用いたやりとり、ルール遊びを行った。特に学童期前には、机上での活動時間の延長や文字への興味の促しも行った。個々の子どもに合わせた発達課題（運動面・日常生活技能・学習基礎能力）に取り組む中で作業遂行能力の向上や子ども自身の気付きの促し、成功体験を通して自己評価の向上など必要性に応じた取り組みを実施した。また、日常生活で配慮すべき点や介助方法などに加え、保護者とのコミュニケーションを密に行い、助言・アドバイスをを行った。

今年度は新型コロナウイルスの影響により、日常生活で主となる保育園・幼稚園・学校の先生方や放課後等デイサービスなどの他事業所職員が見学等に来園することができなかった。そのため電話や文書で情報交換を行い、生活の中で課題に対するアプローチに取り組んだ。また、小学校就学を控える児童に対し、進路に関わる各関係機関に文書で情報提供を行い、卒園後の支援について提案や意見交換にも取り組んだ。

現在、学童児の利用増加に伴い、夕方の時間帯に訓練希望が集中する傾向にある。そのため、学童児の作業療法の利用頻度を月に 1 回または 2 回に調整することで多くの利用者に作業療法を提供できるように努めた。

● 言語聴覚療法

対象 206 名の外来利用者に対し、言語聴覚士 3 名を中心に計 9 名のスタッフで訓練を実施した。訓練は 1 回 2 単位（40 分）を基本とし、頻度は隔週を中心に週 1、月 1 回にて実施した。年間訓練実施単位数は 7,612 単位であった。

対象児（者）は、自閉症スペクトラムといった発達障がいを中心に、構音障がい、言語発達遅滞、脳性麻痺、吃音など、多岐にわたるうえ、同様の診断名・年齢であっても発達の状況に個人差が大きく見られた。また、年齢層は幅広く、訓練を必要とされる期間も、1～2 年で終了となる利用者もいれば、長期の訓練を希望される利用者もいたり様々である。

訓練では、必要に応じた各種検査や観察評価などから短い間隔で再評価を繰り返し行い、アプローチの内容を決定し実施した。

具体的なアプローチは、利用者一人ひとり異なっており、絵カードや型はめといった机上課題、遊びを中心とした関り、環境調整や保護者に対するアドバイスに重きを置くなど多岐にわたった。また、アプローチを行っていく中で、沢山褒める、気持ちに寄り添うことなどを意識して行い、利用者や保護者の自信や達成感、安心感を深めることに努めた。

その中で、生活場面での様子や困り感、成長の様子といった情報交換を保護者と密に行うことが訓練を行っていくうえで重要な要素となるため、積極的に取り組んだ。また、コアラ園スタッフやPT・OTとも情報交換を積極的に行い、保育所や学校、他施設との情報交換も、新型コロナウイルスの影響で来園は難しかったが、電話などを用いて行った。

<地域支援事業等>

1. 肢体不自由児早期訓練事業（県肢体不自由児協会委託、飯塚市）
新型コロナウイルスの影響により中止。
2. 乳幼児発達診査（県環境福祉事務所委託、朝倉市）
ST 1名・・・3回
3. 発達相談（朝倉市）
ST 1名・・・6回

<実習生の受入状況>

新型コロナウイルスの影響により、実習生の受け入れ中止。

《概況》

地域事業部は、障害者福祉や療育活動など何らかの支援を希望される地域の方々と、法人内施設をつなぐ支援者として機能した。地域の方々の多様な問い合わせや要望に対して、施設機能の紹介や利用手続きの説明、スムーズな利用につながるために相談者と事業所間の連携・調整を図った。

対象地域は主に久留米市、うきは市、朝倉市及びその近隣地域としているが、対象地域以外からの問い合わせも多数あり、この状況に大きな変化は見られていない。

令和2年度は新型コロナウイルス感染防止対策のために、見学者数や短期入所の受け入れ者数が極端に減少していること、外部に出向き受講する研修や出張等も減少しリモート会議や文書決済に変更された部分が、象徴的である。

<相談対応業務>

地域事業部が受け付けた相談は、大多数が各機関から紹介されたご本人及びご家族からであり、その他に相談支援事業所や行政関係者、医療機関のソーシャルワーカーからの問い合わせである。また、相談受付からゆうかり学園事業所のサービスにつながる場合、受診予約や受診時の立会い、関係部署との連絡調整等も担い、利用者と事業者双方にとって出来るだけ安心でスムーズな利用開始につなげるよう努めた。

次表で、問い合わせの内容と実際に施設利用につながった件数を示す。

問い合わせ・相談の内容	件数	施設利用に繋がった件数
① 施設入所支援について	22 件	2 件
② 短期入所等について	14 件	3 件
③ 児童発達支援について	19 件	3 件
④ 外来療育・リハの利用について	70 件	17 件
⑤ 見学依頼など	5 件	1 件
⑥ その他の相談	18 件	0 件

- ① 施設入所については、22 件の問い合わせに対してゆうかり医療療育センターで2 名の入所支援につながっている。入所の問い合わせは、人工呼吸器使用の重症の方や介護保険が適応されるような高齢の方、知的障害がメインで療養介護が該当しない方、0 歳児、多動で重心の方が大多数で、結果お断りすることが多かった。療養介護に該当しない方は、当法人内の生活介護事業所へつないだり、他の法人

を紹介した。

- ② 短期入所や日中一時支援についての問い合わせも、多動で重心の方、衝動性のある方が多く、在宅での支援の難しい現実が感じとれる。3名の契約につながっているが、呼吸管理が必要な方など重症児（者）の方の利用はお断りしており、地域の療養介護事業所としては今後の課題といえる。
- ③ 児童発達支援については、利用を希望され契約まで至ったケースは3例である。利用希望の申し出から契約まで時間を要しており、昨年度以前に申し込まれ利用開始に至った方はカウントしていないため少ない数字だが、療育現場ではお試し利用やつなぎ療育などで少しでも早く療育につなげるよう工夫している。
- ④ 外来療育・リハについては、相談70件中17件が診察を経て訓練部や心理療育部の療育・リハにつながっているが、児童発達支援と同じで相談受付から診察までかなり時間を要しているためこのような数字になっている。相談受付後連絡ない方やキャンセルされた方も多くおられ、この点も予約受付から受診まで時間がかかりすぎることが原因の一つと考えられる。
- ⑤ 見学依頼については、新型コロナウイルス感染対策で見学を制限したため、受付自体5件と少なく見学実施も1件のみと、例年に比べ極端に少なかった。この1件も利用者の生活現場へは行かず、研修室で説明のみの対応となった。
- ⑥ その他の相談は、法人内事業所の受け入れ状況や利用手続き等の確認、新型コロナウイルス感染対策に対する施設の取り組み方について、計画相談介入の依頼、診断確定目的の診察依頼、宿泊体験の依頼、医師意見書等作成の依頼、新規事業所立ち上げに際し協力機関として名義貸し出しの依頼、過去の自己カルテ照会依頼の相談など、多岐にわたった。

<短期入所予約調整業務>

ゆうかり医療療育センターにおける短期入所及び日中一時預かりの予約受付と調整業務を地域事業部で行ったが、新型コロナウイルス感染防止対策の影響で年度当初より利用制限を設けたため、極端に利用が少なかった。

(年間利用延べ人数)

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
なかよし寮	宿泊	0	0	0	4	0	0	2	4	2	0	0	2
	日中	0	0	0	4	0	0	1	1	1	0	0	0
おひさま寮	宿泊	0	0	0	4	4	2	0	2	2	0	0	5
	日中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ともだち寮	宿泊	0	0	0	4	0	0	0	5	4	0	0	0
	日中	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0

<施設見学案内>

令和2年度の外部組織・団体から依頼される施設見学は、新型コロナウイルス感染予防対策のため原則すべて中止すると所長会議で決定、受付の段階からお断りした。

ただ、12月に申し込みのあった下表に示す竹野校区民生委員・児童委員協議会については、極めて施設の近隣であることで地域に開かれた施設を目指すという視点、地域交流や貢献で協力体制を維持する必要があることなどを考慮し、見学依頼に応じることとした。

見学案内の方法は、まず感染予防対策下である状況にご理解を求めたうえで、研修室にてスペースを開けてお集まりいただき、法人沿革や各施設の概要を要覧や施設紹介パンフレットなど資料を通じて説明する方法をとった。実際に利用者様が生活されている施設内を周回して見学することは実施せず、質疑応答などを十分に行い事業や支援の様子・課題等を知っていただくことに努めた。

見学案内実績内訳は、以下の通りである。

月	日	曜日	時間	団体名	人数
12	10	木	15:30～16:30	久留米市竹野校区民生委員・児童委員協議会会員	7

<出張関係>

11月12日 久留米市基幹相談支援センター人権研修…1名

(その他の会合出席等)

○ 久留米市ライフレスキュー事業連絡会及び作業…7回

○ うきは市地域障害者協議会…文書決済1回

給食部（中央給食）

給食部理念：栄養管理・健康管理に努め、真心のこもった調理で食の喜び、大切さを伝える。

(1) 区分別熱量

ゆうかり医療療育センター、耳納学園、千歳療護園の区分別熱量に差があるので、副食の量をそろえ、主食の量で調整している。

(単位 Kcal)

	ゆうかり	千歳・第二千歳	耳納
中		2,020	2,200
A	2,100	1,830	
B	1,960	1,550	
C	1,470	1,270	1,640
D	1,250		1,350
E	1,080		

(2) 行事食

令和2年

- 4/ 9 千歳療護園開園記念日 外注弁当、ケーキ、飲み物
- 4/23 耳納学園開園記念日 外注弁当、ケーキ
- 6/18 耳納学園夕食会 牛丼
- 7/16 耳納学園 一日レクリエーション (喫茶)
- 8/ 4 第二千歳療護園開園記念行事 外注弁当、ケーキ、飲み物
- 8/19 なかよし寮お楽しみ会 デザート盛り合わせ
- 8/27 千歳納涼祭 焼き鳥、焼きそば、たこ焼き、おにぎり、デザート
- 8/28 耳納学園 昼食事会 ピザ
- 9/17 耳納学園 夕食会 焼き鳥
- 10/ 7 ともだち寮お楽しみ会 焼肉、プリンアラモードフルーツ添え
- 10/28 耳納学園食事会 外注弁当
- 10/28 千歳療護園、第二千歳療護園レクリエーション
外注弁当、デザート
- 11/ 4 ゆうかり医療療育センターレクリエーション 外注弁当
- 11/19 耳納学園夕食会 寄せ鍋

- 12/16 ゆうかり医療療育センター クリスマス会
ハンバーグ（サンタ）とコロッケ（トナカイ）、ステーキ、
ポテトサラダ、ナポリタン、卵焼き、からあげくん、
フルーツ・ケーキ盛り合わせ、いなり寿司、おにぎり、
コーンスープ、飲み物
- 12/16 千歳療護園・第二千歳療護園忘年会
寿司盛り合わせ、ロブスター・Lチキ、揚げたこ、ウインナー
ステーキ、ポテトサラダ、フライドポテト、ナポリタン
フルーツ盛り合わせ、ケーキ、ミニアイス、おつまみ、飲み物
- 12/16 耳納学園忘年会
寿司盛り合わせ、ステーキ、ウインナー（5種）、ポテトサラダ
ナポリタン、フライドポテト、カニの爪、クリームコロッケ、
ハンバーグ、卵焼き、フルーツ（メロン・イチゴ・オレンジ）、
ケーキ、飲み物

令和3年

- 1/ 1 おせち料理（昼）
がめ煮、干支かまぼこ、昆布巻、エビのつや煮、牛肉の八幡巻き
伊達巻、紅白なます、肉団子、ウインナー、数の子、苺、ねりきり鯛
- 1/14 耳納学園 一日レクリエーション（喫茶）
- 1/23 耳納学園一日レクリエーション（喫茶） ロールケーキ、飲み物
- 2/ 2 耳納学園 千歳療護園 第二千歳療護園 節分 巻きずし、
- 2/18 耳納学園夕食会 しゃぶしゃぶ
- 3/17 なかよし寮お楽しみ会 外注弁当
- 3/18 耳納学園一日レクリエーション ラーメン

(3) 研修関係

令和3年3月 令和2年度 第1回施設長・職員研修会（WEB研修）
その他の研修会、講習会などはコロナウィルス感染症のため中止

(4) 衛生管理

- ① 食品の納品時、品質のチェックと納品時間記入（冷蔵品は表面温度記入、
冷凍・冷蔵品は収納庫の温度記入）
- ② 手洗い液による手洗いとウェルパスによる消毒の励行
- ③ 調理時、中心温度計にて中心温度測定、記入

- ④ 調理の出来上がり時間記入
- ⑤ 調理後、冷蔵庫に入れるものは入れた時間・温度記入
- ⑥ 調理器具やシンクの除菌にアルペット E バリアス 1（食品添加物除菌剤）使用
- ⑦ 冷蔵庫の清掃、温度記入
- ⑧ 調理室の温度・湿度記入
- ⑨ 検収室の温度記入
- ⑩ 盛りつけ時、使い捨て手袋、使い捨てマスク使用
- ⑪ 洗浄室、下処理室にて専用のエプロン、スリッパ使用
- ⑫ 水質検査 始業前、終業後に残留塩素測定（毎日）
業者による管理（毎月）
- ⑬ 細菌検査（検便）
腸管出血性大腸菌（O-157 他）を含む病原腸内細菌検査（毎月）
ノロウイルス抗原検査 10 月、3 月
- ⑭ 業者（トキワビル）によるネズミ・ゴキブリ駆除（毎月）

(5) 給食委員会

ゆうかり学園

構成メンバー 所長、事務局長、看護部長、薬剤師
看護課、育成課、訓練課、給食部より代表者
園生代表者（ともだち寮 2 名、なかよし寮 2 名）

開催回数 月 1 回

耳納学園

構成メンバー 利用者様 29 名、生活課 2 名、栄養士

開催回数 月 1 回

千歳療護園

構成メンバー 利用者様 4 名、総務課、生活支援課、
訓練支援課、栄養士

開催回数 2 ヶ月に 1 回

内容

各施設で構成メンバーは異なる。毎月の誕生会の希望メニューや、行事食の希望、給食についての感想や反省点などを話し合っている。

また、行事食は、終了後に感想や反省をあげて、次回の参考にしている。
嗜好面や食事形態、食器等についても、様々な部署の方を交えて検討ができる
良い機会なので、今後もいろいろな方面からの意見を参考に、より良い食事提
供をしていきたい。

(6) まとめ

毎日の食事で、季節を感じていただけるように、その時期の食材を使用した
メニューや話題のメニュー、利用者様からの希望などをとり入れてながら食事
に変化をつけてきた。食形態については、ムース食、マッシュ食の調理をスチ
ームコンベクションオーブンを活用し、スムーズに作れるようになったため、
安定して提供できるようになってきた。
今後も、利用者様にとってより安全な食事形態になるように研鑽を積みたいと
思います。

誕生会のメニュー 令和2年度

4月	親子丼	10月	ちらし寿司
5月	ステーキ	11月	焼きカレー
6月	ビビンバ丼	12月	オムカレーハンバーグ
7月	天丼	1月	焼肉
8月	カツカレー	2月	チーズハンバーグ
9月	ロコモコ丼	3月	ステーキ

こもりぐま保育所

本園では、家庭に代わり子供達を預かり家庭内の温かさにより近づけるよう、愛情溢れたスキンシップの保育を目指してきた。健康で意欲的、創造的な心と身体を育成する目的で、戸外活動も取り入れており、自然に恵まれた環境の中、四季折々の果物・花・虫などと触れ合っている。

その他、個人の能力、年齢に合わせた生活習慣の習得を子供の発達状態をよく見極めて、無理なく個別指導をしている。そして、集団の中における協調性を遊びの中で養ってきた。

本園がまず何よりも、大切にしているのは家庭的雰囲気の中での保育である。そのためにも健康状態など、家庭との連絡を密に心掛けている。

	【	令和2年度	利用児	】			
延べ	1,348	人	開所日数	238日	1日平均	5.7	名

【 園外活動 】

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、中止

児童発達支援センター コアラ園

福祉型児童発達支援センターとして、3事業（①児童発達支援 ②放課後等デイサービス ③保育所等訪問支援）に取り組む。

① 児童発達支援

日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練等の便宜を付与することを目的とし、月曜日～金曜日の週5日に、「あそび教室」というかたちで、グループ療育及び個別療育を実施した。内容として、日常生活動作（食事・排泄・衣類着脱等）の獲得及び、小集団での行動獲得を基本療育とし、感覚あそび、知育あそび、歌あそび、製作、母子あそび、運動あそび、戸外あそびなどのカリキュラムを、個々の成長段階に合わせて提供した。例年実施しているプール遊びは、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の為、中止する。

遊びを通しての楽しさ、自己表現、作品完成への自信や達成感を味わうことを大切に、不快ではなく、快な状態を出来るだけ多く提供する事を心掛けながら進めていった。

また、母子関係の安定と充実に努め、そこから対人関係づくりへと発展出来るように配慮し、集団における社会性や協調性を伸ばすことも目的とした。

平成30年度より取り組んだ、下記①②の活動も継続して実施した。

- (1) 文化庁の伝統文化親子教室事業への参加として、生花教室を専門の先生（片岡清美 氏）にお願いし、月1回の教室と、年1回の作品発表会（11月21日～22日 田主丸町そよ風ホール）を実施する。
- (2) 耳納学園陶芸教材による陶芸教室を実施する。
年長児に対する、就学に向けての机上での活動と、集中力の持続を自発的に促す取り組みとして効果を感じることが出来た。卒園記念品のマグカップ等を作成する。

年間行事としては、

園内行事： 子育て講座（講師：大滝悦生 Dr.）を参加人数の調整の為、2グループに分けて実施する。

（9/16(水)17名参加、10/29(木)17名参加 研修室にて）

季節の行事（クリスマス会、節分、卒園を祝う会）は、通常療育の中に設定して実施する。

園外行事： 新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、ゆうかり学園盆踊り花火大会、運動会が中止となる。

また、月1回の避難訓練（10月は消防署員による講習会）を実施し、避難誘導等の訓練を園児、保護者と共に体験した。

その他、就学を迎える園児の保護者に対し、特別支援学校（2校）、特別支援学級（19校）への見学案内を行うとともに、並行通園をしている保育園、幼稚園への情報提供書作成や園内見学等の受け入れも行った。

また、地域の依頼により、久留米市、うきは市、朝倉市へスタッフ2名を派遣し、保育療育支援及び、相談支援業務を行った。（年間合計106回の支援）

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、開催中止あり。（久留米市16回、朝倉市6回、うきは市10回）

コアラ園登園に、年間で84名の契約利用児を受け入れ、1日平均で16.8名が利用する。

② 放課後等デイサービス

生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進その他の便宜を供与することを目的とし、月曜日～金曜日の週5日、15時～18時の時間帯で就学児を受け入れる。

田主丸特別支援学校の生徒4名（高校生2名、中学生1名、小学生1名）計4名が年間で定期利用する。（不定期利用児5名）

③ 保育所等訪問支援

当該施設を訪問し、当該施設における障害児以外の児童との集団生活への適応のための専門的な支援その他の便宜を供与することを目的とし、年間で2名の利用あり。

久留米市南薫小学校 1名 4回訪問

久留米市高良内保育園 1名 6回訪問

<知能検査>

就学を迎える年長児に対して知能検査を実施し、就学先への情報提供として作成すると共に、対象児の課題等を見つけ出し、今後の療育方針を決定する上での参考資料としていった。（コアラ園契約児8名実施）

<在宅支援>

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、4月15日より5月31日まで休園の対策をとる。この期間、各園児保護者への電話相談や、自宅で学習する療育教材・療育DVD等の送付、お便りハガキの送付を行う。

<学校見学案内>

	学校名	参加園児		学校名	参加園児
1	久留米特別支援学校	3名	12	うきは市立福富小学校	1名
2	小郡特別支援学校	1名	13	うきは市立千年小学校	2名
3	久留米市立京町小学校	1名	14	朝倉市立金川小学校	2名
4	久留米市立西国分小学校	2名	15	朝倉市立三奈木小学校	1名
5	久留米市立田主丸小学校	1名	16	朝倉市立甘木小学校	1名
6	久留米市立津福小学校	2名	17	朝倉市立杷木小学校	2名
7	久留米市立御井小学校	1名	18	小郡市立御原小学校	1名
8	久留米市立高良内小学校	1名	19	大刀洗町立菊池小学校	1名
9	久留米市立犬塚小学校	2名	20	福岡市立野多目小学校	1名
10	うきは市立江南小学校	1名	21	私立海星小中学校	1名
11	うきは市立吉井小学校	3名	22		

<通園児診断>

診断名	該当児	診断名	該当児
構音障害	60	筋緊張低下症	3
発達性協調運動障害	58	未熟児網膜症	2
言語発達遅滞	57	ダウン症候群	1
精神運動発達遅滞	48	注意欠陥多動性障害	1
自閉症スペクトラム障害	42	嚥下機能障害	1
知的障害	23	細菌性髄膜炎後遺症	1
運動発達遅滞	19	先天性心臓病	1
多動症	9	心房中隔欠損症	1
自閉症	6	肺高血圧	1
筋力低下	4	動脈管開存症	1
歩行障害	3	頭囲拡大	1
契約児 84名（診断名複数該当あり）			

<出張関係>

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、研修、出張関係を自粛する。

相談支援事業所 夢の紀

＜概況＞

夢の紀は、当法人内全施設のほぼ全員の入所者に対する計画相談を始め、久留米市、朝倉市、うきは市等に在住の障害児（者）の計画相談を行った。本年度の実績は下表の通りである。

＜計画相談契約件数＞

サービス等利用計画・障害児計画相談担当総件数		357 件
内 訳	障害児計画相談	105 件
	サービス等利用計画（在宅）	42 件
	サービス等利用計画（当法人施設入所者）	210 件

昨年比：契約件数 13 件増

内 訳：障害児計画相談/13 件増

サービス等利用計画（在宅）/5 件増

サービス等利用計画（入所）/5 件減

＜計画相談作成件数＞

新規相談	38 件（児童 24 件 者 14 件）
障害児支援利用計画・サービス等利用計画作成件数	263 件（児童 98 件 者 165 件）
継続障害児支援利用援助・継続サービス利用支援作成件数	315 件（児童 98 件 者 217 件）
サービス提供時モニタリング加算、退院加算、サービス担当者会議加算等	10 件
医療ケア児、強度行動障害体制換算	1,154 件

昨年比：新規相談 11 件増

障害児支援利用計画・サービス等利用計画作成件数/81 件増

（児童 8 件減 者 89 件増）

継続障害児支援利用援助・継続サービス利用支援作成件数 44 件減

（児童 9 件減 者 53 件減）

- ・入所利用者の多くが認定区分更新年度であり、モニタリングの件数が減少し、計画作成の件数が増加している。
- ・コアラ園利用者が就学に伴い、サービス利用終了とともに計画相談の終了にて減少している。

●本年度、ケースの抱える複雑な課題等により法人内外の関連事業所や医療機関、

公的機関との連携・調整等に特に多くの時間を費やした特徴的な事例を、以下に挙げる。

- ・主介護者の入院により、在宅生活から入所施設への調整（1件）
- ・本人の状態変化に伴い、ご家族、関係事業所、担当市町村と連携し、入所調整（1件）
- ・グループホームから施設入所への調整（1件）
- ・主介護者の逝去に伴い、単身生活になられた方の在宅サービスの調整（1件）
- ・市外への転居に伴う市町村への連絡、相談支援事業所との連携、情報交換等（2件：北九州市、大分市）
- ・計画依頼があるものの居住地が遠方であるため、居住地近くの相談支援事業所への照会と調整（2件）
- ・難病をもたれ、施設入所支援から在宅支援へと移行される事例（1件）
介護保険優先の中、障害福祉サービスの利用部分の計画作成、および調整。介護保険で補えていない難病に対する本人及び家族の心理的背景を理解し、ケアマネージャーとの連携で他事業所への調整を行った。
- ・就労継続支援A型での就労を行うが、続かずに転職を繰り返す方のサービスの調整と精神的支援を行った。（1件）
- ・障害児措置入所から在宅支援への移行に関し、担当児童相談所、市町村、近隣基幹相談支援、学校からの問い合わせへの対応（1件）

●本年度の計画相談業務に関する考察を以下に挙げる。

- ・基本相談支援のみで経過している事例が1件あり、時間は費やすがサービス利用につながらないため計上できない。
- ・市町村によってモニタリング回数の制限があるため、不安が特に強いご家族に対する支援をモニタリングとして計上できない。
- ・朝倉市、うきは市からの計画対応（児童通所支援が主）のために、所属地域である久留米市の計画対応が難しい。
- ・在宅利用者様で療養介護施設の短期入所が施設都合で利用できなくなる場合の在宅サービス調整が煩雑である。
- ・在宅、関係事業所への訪問時には、訪問地域の感染症の発生状況を確認し、訪問時には、マスクや手指スプレーでの消毒、検温等、感染症対策を遵守した対応を行った。
- ・新型コロナウイルス感染症対策にて、通所事業所の利用調整が必要な方へのサービス利用事業所の調整を行った。
- ・新型コロナウイルス感染症対策にて、各サービス事業所や学校等への訪問を控

える状況もあり、文書や電話等でのやり取りが中心となった。十分な対応を行うことへの難しさを感じ、顔の見える関係を築いていくことの重要性を改めて感じた。

《基幹相談支援センターとの連携》

東部基幹相談支援センターから依頼(7件)を受け、福祉サービスの必要な対象者に、計画相談での対応を行った。また、すでに計画相談に入っている困難事例の計画相談において東部基幹相談支援センターと連携して支援を行った。

《久留米市介護サービス事業所協議会との連携》

久留米市介護サービス事業所協議会コーディネーターから依頼(1件)をうけ、在宅における医療的ケアを要する幼児の計画相談での対応を行った。

《関連事業所との連携》

- ・新型コロナウイルス感染症対策にて、事業所や保育所、学校への訪問は可能な限り控え、会議の開催は行わずに、FAX やメール、郵送での照会にて、支援状況の確認を行った。緊急時や必要時には感染症対策を十分に行うことで、短時間の会議開催、訪問を行った。

(相談業務における連携機関)

○公的機関

- ・久留米児童相談所
- ・福祉課(久留米市、うきは市、朝倉市、他、施設入所給付市町村)
- ・久留米市こども子育てサポートセンター
- ・久留米市学校教育課(スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー)
- ・久留米市生活支援課
- ・久留米市地域福祉課
- ・久留米市幼児教育研究所
- ・久留米市社会福祉協議会
- ・久留米市保健所
- ・うきは市子育て支援課
- ・うきは市社会福祉協議会
- ・朝倉市子ども未来課

○保育所・学校関係

- ・保育園(木の実保育園)
- ・特別支援学校(久留米、田主丸、久留米聴覚)

- ・小学校（宮の陣、山川、高良内、芝刈、甘木）
- ・中学校（宮の陣、三輪）
- 医療機関（久留米大学病院、聖マリア病院、田主丸中央病院、のぞえ総合診療病院、倉田内科小児科医院、むたほとめきクリニック、耳納クリニック、聖ルチア病院、久留米リハビリテーション病院、宮崎整形外科医院、くまがえクリニック、やなぎ医院、筑後吉井こころホスピタル、本間病院、姉川脳神経外科、姫野病院）
- 児童発達支援（ひばり園、おひさま、るんるん、いきいきハッピーステップ津福POSC、こぐま学園）
- 放課後等デイサービス（ころころ、和歩わく、アクア、おひさま、るんるん、すまいる、クレア、芽愛、にじ、COCORO、スイングキッズ、こどもプラス久留米教室、あっぷ、いきいきハッピーステップ津福、かぶとむしクラブみのう、さるくるめ、Like-Pot、愛の家あさくら館、ヒカレ、こどもプラス甘木教室、第六野の花、ういずあっぷる浮羽校、かぶとむしクラブしらかべ、ハッピースペース、POSC、きらきら、菊池園放課後デイサービス、かなむ、わくわく）
- 保育所等訪問支援（Switch）
- 生活介護（一麦寮、ちとせ園、和歩わく、どんぐり、若葉、愛らんど、浮羽学園、希望ヶ丘、風の丘、陽だまりの里、シンフォニア、赤坂園、菊池園、ふるさと）
- 就労移行支援（Join、みどりの園、白鳥の家）
- 就労定着支援（あゆむ）
- 就労継続支援（わくワークステーション千歳、レガート、みどりの園、荒木学園、ラ・ソレイユ、不思議の国のマーメイド、まんまる、プロジェクト-T、だいちに水、パブリカ、天心園、ライフステージ）
- 療養介護（聖ヨゼフ園、柳川療育センター、久山療育園、若楠療育園、東佐賀病院）
- 居宅支援（田主丸社協、ひまわり、アップル久留米、えがお、くるめさるく、生協、ライフケアステーション、ニチイケアセンター、しんらい、心にスマイル、Find and Act、さくら介護、涼風、アップル小郡、りあん）
- グループホーム（悠光会、浮羽学園、筑後吉井こころホスピタル、天心園、ライフステージ）
- 自立訓練（明蓬館、五灯館大学校）
- 訪問入浴（アップル久留米、くましろ）
- 短期入所・日中一時（和歩わく、のびのび、ASOBIVA、希望ヶ丘、赤坂園、さくらあと）
- 訪問看護（アップル久留米、聖マリア、訪看くるめ、田主丸、デューン、ルナ、子守柿、ひとつ星、よもぎ、あいぞら、国分、アップル小郡、ひばり、アソシオ

ール)

- デイケア（筑後吉井こころホスピタル）
- 地域活動支援センターⅢ型（さくらんぼ、すまいるハウス）
- 就業・生活支援センター（ぽるて）
- 介護支援専門員（結心）

《自立支援協議会への参加》

- ・久留米市地域生活支援協議会施策推進部会重心分科会に所属し、副部会長としての責務を行った。
- ・久留米市地域生活支援協議会施策推進部会相談部会委員（相談ねっと）に所属し、会合へ参加していく中で、情報交換、研修、地域課題への取り組みを市福祉課、事務局と連携して行った。
- ・うきは市地域障害者協議会計画相談部会に所属し、情報交換、研修、地域課題への取り組みを市福祉課、事務局と連携して行った。

《相談援助実習の受け入れ》

新型コロナウイルス対応にて実習の受け入れ中止

《研修会》

- 3月20日 ネットワークふくおか 報酬改定に伴うweb研修会（小郡市）…1名
- 3月26日 八女筑後・久留米圏域相談支援従事者web研修……………2名

（その他の会合）

- 久留米市相談支援事業所連絡会（久留米市相談ネット） ……5回
- 久留米市地域生活協議会（施策推進部会、重心部会） ……9回
- 久留米市重心児者地域生活支援事業（医療ケア児者短期入所推進連携会議） ……2回
- 久留米市障害者基幹相談支援センター（東部地区実践研修回） ……1回
- うきは市地域障害者協議会（計画相談部会等含む） ……2回
- 田主丸特別支援学校連絡調整会議・研修会・相談会 ……3回

耳 納 学 園

《概況》

今年度は、世界規模で感染拡大をしている、新型コロナウイルス感染拡大防止に関係する対応に追われた一年であった。

全国の病院や老人施設及び障がい者支援施設におけるクラスターの発生が毎日のようにニュースで流れていて、いつ、耳納学園も感染するかもしれないという不安が付きまとっている。

社会福祉法人ゆうかり学園における感染拡大防止策を策定し、保護者様や利用者様及び職員へ協力をお願いしている。

特に利用者様へは外出・外泊の自粛を、保護者様へは面会の自粛をお願いし、ご協力をいただいている。

健康面では、毎日、利用者様へ検温を行っている。職員には、常時マスクの使用と仕事前の検温・手洗いの実施、私生活においては、不要不急の外出自粛を要請し、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めてきた。

作業面・生活面においても、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の影響で、耳納の里販売や地域の小学校陶芸教室などを中止させてもらう対応をとったり、毎年恒例の「ゆめタウンくるめ展示即売会」1月9日（土）～11日（祝月）を実施すべく準備を進めていたが、福岡県も新型コロナウイルス感染者数が増加傾向にあり、緊急事態宣言の発出も想定されるため、12月初旬に中止の決定を行った。又、実習生の受け入れも今年度は中止させてもらった。行事関係もゆうかり盆踊り花火大会やゆうかり学園運動会も中止し、レクリエーション関係の行事や個別支援計画での体験外出も、今年度はおこなえなかった。

今後、歴史書に載るであろうコロナウイルス感染症の真ただ中で自粛生活をしているが、コロナウイルス収束に向けて、予防ワクチンの接種が始まる。一日も早く、通常の生活に戻れるように今一度、我慢のしどころである。

利用者様には不自由な生活をお願いしており、申し訳なく思っていますが、次年度も安全・安心そして快適な施設づくりに向けて取り組んでいきたい。

1) 本年度の各事業別利用状況

《施設入所支援》定員 34 名

年間延べ利用者数 10,442 名、充足率 84.1%、1 日平均利用者数 28.6 名

《就労継続支援 B 型》定員 40 名（通所 6 名含む）

年間作業参加実績延べ利用者数 6,854 名、定員から見た充足率 70.5%、

1 日平均作業参加実績利用者数 28.2 名

2) 本年度の地域別入退園状況は、別表（1）の通りである。

別表（1） 本年度の地域別入退園状況

入園状況 地域別	前年度末		入 園		退 園		本年度末	
	男	女	男	女	男	女	男	女
福岡市		1						1
久留米市	4	3	1				5	3
柳川市		4						4
朝倉市	2	1					2	1
大川市		1						1
小郡市		1						1
うきは市	1	1					1	1
佐賀白石町		1						1
新宮町		1						1
八女市	1	1					1	1
みやま市		1						1
壱岐市	1						1	
東峰村	1						1	
唐津市	1						1	
武雄市	1						1	
計	12	16	1	0	0	0	13	16

【就労支援課】

陶芸部門において、まずは制作面では、本年も売れ筋製品、在庫数の少ない製品を中心に行ってきた。また新製品制作の取り組みを通じて、制作の幅が広がった利用者もいた。ゆうかり学園卒園生の1人が新たに入所し陶芸部門に参加したことで、良い刺激にもなった。1月からは、材料費を抑えることも考慮し、生産計画を立て、より丁寧な製品作りを進めている。本焼成においては、早出、遅出制を敷いた上で、なおかつ職業指導員経験者の管理課職員の協力を受けながら、昨年並みの回数を実施できた。

工芸部門では、身体機能低下による見守り入浴の利用者が増加した。作業時間内での取り組みとなり、作業の時間は減少する反面、生活面での不安感が軽減し、作業中の精神面で安定した感じが見受けられた。制作面では、工芸部門の利用者で意見を出し合い、それぞれが担当できる作業を行い、協力し合えるような製品作りを目指し、一つの新製品制作に1月より取り組んでいる。

食品加工部門では、「絆・まごころ農園」で収穫した「ニンニク」を使用した「焼肉のたれ」を製造した。昨年課題であったニンニクの保管においては、皮むきした後に冷凍することで改善された。しかし、9月に製品の容器が膨張する事態が発生し、一時出荷停止に及んだ。独自に検証を行うなど、原因の究明にあたったが、程なく原料醤油の製造元における品質管理上の問題と判明した。再販にあたり、いかに食品に対する管理が重要であるかを痛感することになった。

農作物部門では、「絆・まごころ農園」で「ニンニク」、「米」、「季節の野菜」の生産を行った。販路も昨年同様、法人職員を対象に実施した。しかしながら、「ニンニク」の生育状態不良が見られ、昨年と同じようにはいかなかった。

販売関連においては、新型コロナウイルスによる影響を受けた一年であった。主には、恒例の「ゆめタウン久留米展示即売会」と「まごころ製品大規模販売会」の中止、更にその他各種イベント（地域における陶芸教室を含む）の中止が相次ぎ、出向の機会は激減した。また、受託販売（パン、クッキー類）も1件の契約解除と、もう1件においては、現在停止中である。その中でも、感染状況が落ち着いている期間に、「耳納の里」での出向販売を10月と3月に実施することができた。

この新型コロナウイルスの影響による不安定な情勢の中で、作業にあたる利用者の情緒面などにも寄り添いながら、いかにして支援していくかが課題である。

1) 本年度の売上及び工賃支給状況は、別表(2)の通りである。

別表(2) 本年度の売上げ及び工賃支給状況

月	売上金額	工賃支給額
4	824,894	260,830
5	429,482	261,006
6	364,935	248,916
7	502,733	249,177
8	263,358	249,742
9	205,705	247,770
10	454,313	245,494
11	521,066	244,815
12	348,586	208,417
1	201,779	206,634
2	152,865	204,087
3	420,585	204,134
計	4,690,301	2,831,022

※ 本年度の工賃支給率は、60.3%

【生活支援課】

生活面においては、社会福祉法人ゆうかり学園コロナウイルス感染拡大防止対策による、利用者様への外出や外泊の自粛をお願いした。又、保護者様へも面会及び外泊の自粛をお願いした。

おかげさまで、事の重大さを皆さまが認識されておられ、現在に至るまでご協力を頂いている。

又、すべての行事(身障者スポーツ大会、盆踊り花火大会・運動会、個別支援計画における体験外出等)が中止となり、さみしい思いもあったが、自分を守る事が他の人(仲間)を守る事を、利用者様は理解されておられ、通常の生活に戻る日まで、自粛生活に耐えておられる。

施設長より、外出や帰省等ができない状況でストレスがたまる利用者様もおられることを考えて、職員は言動等に十分注意して利用者様と接するようにと、毎回話をしていただいている。

職員は、利用者様の普段の様子を見ながら、積極的に声かけをおこなっている。これからも、利用者様への気配りをしながら、快適な生活ができるように支援をして行きたい。

1) 本年度の在園期間別人員数及び平均在園期間は、別表(3)の通りである。

別表(3) 入園期間別人員数及び平均入所期間

区分	1年未満	1～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20年以上	計	平均
男	1	1	2	0	2	7	13	23年0ヶ月
女	0	0	2	1	3	10	16	28年8ヶ月
計	1	1	4	1	5	17	29	25年8ヶ月

2) 本年度の年齢区分別人員数及び平均年齢は、別表(4)の通りである。

別表(4) 年齢区分別人員数及び平均年齢

区分	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	計	平均
男	0	1	3	1	8	13	51歳0ヵ月
女	0	0	0	2	14	16	59歳0ヵ月
計	0	1	3	3	22	29	55歳0ヵ月

3) 本年度の主な実施事項は、別表(5)の通りである。

別表(5) 主な実施事項

月	日	行事	月	日	行事
4	23	開園記念行事	11	19	夕食会(寄せ鍋)
6	18	夕食会(牛丼)	12	16	忘年会(ローストチキン)
7	17	喫茶店(コーヒー他)	1	14	喫茶店(鯛焼き)
8	20	喫茶店(ホットケーキ)	2	18	夕食会(しゃぶしゃぶ)
9	17	夕食会(串焼き他)	3	18	夕食会(ラーメン)
10	16	昼食会(お弁当)			

4) 本年度実習生の受け入れ

介護等体験実習・保育実習 I

*新型コロナウイルス感染拡大対応の為中止する

【看護課】

今年度は新型コロナウイルス感染症により、外出や外泊の中止など日常生活を余儀なく制限された1年であった。そんな中転倒で骨折された方が2名、1月に糖尿病コントロールで約1ヶ月入院治療、インシュリン注射しながら治療中の方1名。感染性胃腸炎で1名個別対応、肺炎球菌予防接種2名、年2回の健康診断は実施、年1回の口腔健診はコロナ禍で遅れて随時実施中。インフルエンザ罹患は1名もなく、感染対策によるものと考えられる。

利用者様の心身状態は、コロナ禍にあり我慢も強いられてストレスも多い。加齢に伴う様々な症状や、介助を必要とする場面も増えており、残存機能を考慮し、その人らしい生活ができる様な看護の提供に努めたい。

1) 月別受診人員数は別表(6)の通りである。

別表(6) 月別受診人員

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
定期薬	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
臨時薬	22	22	22	23	23	23	23	23	23	23	23	23	273
循環器科	1	0	4	0	1	4	0	1	4	0	0	4	19
内分泌科	2	0	2	2	1	1	0	2	0	1	1	0	12
脳神経科	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	18
消化器科	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	1	0	6
一般内科	2	6	3	1	2	4	8	4	3	2	3	3	41
整形・外科	2	1	5	1	4	5	1	1	2	4	10	5	41
歯科	3	0	0	8	11	8	16	14	13	12	7	9	101
皮膚科	0	10	3	0	5	5	1	4	4	2	1	5	40
眼科	2	1	6	1	6	4	1	1	6	1	1	3	33
婦人科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
精神科	0	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1	2	19
入院	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	5
耳鼻科	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

【2020年度研修等出張記録】

期日(期間)	研修会名称	出張先	参加数
令和2年 10/6	応研「福祉大臣」基礎機能対策セミナー	WEB研修	1
10/21	久留米市 新型コロナウイルスにおける久留米市の情報交換会・連携体制についての協議会	久留米市	1
令和3年 3/8	福岡県身体障害者施設協議会 施設長・職員研修会	WEB研修	1
3/25	福岡県身体障害者施設協議会 社会福祉法人経営者セミナー	WEB研修	1

千歳療護園

《概況》

福岡県内では令和2年2月20日にはじめて新型コロナウイルス感染症の患者の発生事例が報告され、久留米市では令和2年3月31日にはじめての感染者が確認された。法人の指針として利用者様の外泊や面会の自粛、職員の不要不急の外出等の自粛、また施設内では職員の出退勤時の手指消毒、マスクの使用、出勤前の検温、食事介助前の手指消毒、食事中的ゴーグル装着、換気、ドアノブやテーブルの消毒など感染防止対策に努めクラスターが発生しないよう最善の努力を行った。また、令和3年2月24日には、コロナ感染対策として久留米市の協力を経て職員全員のPCR検査を行っている。結果、全職員ともコロナ感染は陰性であった。現在、千歳療護園に於いては、インフルエンザを含め感染症に罹患された利用者様、職員はいない。新型コロナウイルスが終息するまでこの現状を維持できるよう今後も利用者様、職員が一丸となって感染予防を徹底する必要がある。

利用者様に対しては、令和2年8月より環境を整備しタブレットによるオンライン面会を実施した。利用者様、保護者とも画面での面会であったが、お互い顔が見られ安心されている。また、3密(密集・密閉・密接)回避の為、食堂での各テーブルにパーティションを使用し、食事場面に於いてご自身で安全に食事ができる方は、居室で摂って頂き食堂内でのソーシャルディスタンスを保つことが出来ている。敷地南側には、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業による多機能型簡易居室を建設した。面会や外泊、行事(盆踊り花火大会・法人全体による運動会など)の中止や縮小により、利用者様へのストレスが増してきている中、8月より個別支援活動にて単独の外出であるが久留米市近郊～朝倉三連水車など30分から60分程度のドライブ外出を行い気分転換に繋がるよう努めた。

自然災害については、近年福岡県は、「百年に一度」というような豪雨を毎年のように経験している。昨年7月には豪雨により筑後川片ノ瀬流域が氾濫の危険があるとの事で安全対策委員会を中心に排水作業や水はけ作業を泊まり込み対応した。久留米市では内水氾濫はあったものの当園に於いては被害もなく過ごすことが出来た。また9月の台風接近では、不測の事態に備え利用者様の安全確保の為、数名の職員が泊まり込み対応した。

利用者様の生活環境については、7月に第二回目のギャッジベッド(6台)の搬入があっている。一昨年12月の搬入と合わせて12台となり利用者様に使用して頂いている。また、見守り支援システム『眠りスキャン』を5台導入、夜間帯に急変の可能性のある利用者様に使用して頂いている。

<千歳療護園 総務課>

1. 本年度の各事業別利用状況

【施設入所支援：定員 40 名】 *11 月 11 日 1 名入所により現員 41 名

定員延数 14,600 名（現員延数 14,741 名）

年間実利用者数 14,315 名 定員から見た充足率 98.0%

現員から見た充足率 97.1%

1 日平均利用者数 39.2 名

【生活介護：定員 50 名（内、通所 10 名）】

入所：定員延数 10,440 名 年間延べ利用者数 10,262 名 充足率 98.2%

通所：定員延数 2,610 名 年間延べ利用者数 1,456 名 充足率 55.7%

【短期入所：定員 2 名】

年間延べ利用者数 17 名

【日中一時支援】

利用なし

【入院・外泊者】

入院延日数：426 日間

6 名の入院のうち 1 名の方は令和 2 年 3 月 19 日からの長期入院であり、現在も入院中である。入院の状況として利用者様の高齢化や身体機能の低下等により様々な疾患に罹患するリスクが高くなり、入院が長期化したり入退院を繰り返す傾向が窺える。尚、令和 3 年 3 月 31 日現在の入院者数は 2 名である。外泊については新型コロナウイルス感染拡大防止により自粛していただいているため該当なし。

【入所】 令和 2 年 11 月 11 日、1 名入所されている。

2. 本年度の地域別入退園状況は別表（1）の通りである。

別表（1） 本年度の地域別入退園状況

生活部 (1) 生活支援課

(パートナー係)

本年度は、コロナウイルス感染症対策のため、例年計画していた希望外出やランチ外出などの外出計画を行えず、園内活動を中心に行ってきた。利用者様の個別支援計画内容で多い、外出に関しては、自粛生活をお願いした状態となり、感染防止のため商業施設や飲食店へ訪れることができず、ストレスを感じている利用者様が見られるようになった。そこで、車窓から観る景色を楽しんでもらい少しでも気分転換へと繋がることができるようにドライブ外出の計画を立てた。車両から降りないことを条件に久留米方面、朝倉方面、甘木方面、草野方面の4コース設け、行先を利用者様に選んでいただくといった形をつくり、気軽に外出できるようにした。ドライブだけでも気分転換となっている様で次回の活動日を楽しみにされており、また一つの選択肢が増えているようである。

その他、月一回の生け花教室やネイルボランティア、出張散髪などの外部から招いて行う活動も中止及び職員にて対応するといった内容に変更して実施してきた。

特に散髪に関しては、髪の伸び具合や希望された時など外部依頼が出できないので職員にて対応している。

行政手続きに関しては、コロナウイルス関連にて施設に住民票を置いている利用者様の特別定額給付金の申請を男性16名、女性15名行っている。家族で申請を行う利用者様については、身分証明のための保険証等のコピーの郵送を送るなどの対応を行っている。また、本年度は障害程度区分の見直し時期の利用者様が多く、コロナウイルス感染症予防のため、障害程度区分延長の申し出や電話による聴き取り調査の対応を行っている。

買物代行に関しては、面会制限などもあり、家族による洋服、食べ物の差し入れがなくなったためか、買物代行を利用する方が増えている。特に食べ物（お菓子）の購入件数が増えており、2週間に1回行われている利用者買物日以外でも購入することが増えている。

その他、インターネットを利用した買物の仲介と支払い、受給者証、確定申告など行政への手続き代行業務、保護者への連絡書や小遣い帳複写書類の作成などの業務を行っている。

コロナウイルス感染症の影響により、外出する機会が少なく先の見えない状況となっているが、今後は、少しでも楽しい生活を送って頂けるように工夫を凝らした活動計画していくようにしていきたい。

☆ 週生活表は別表 (2)、年間実施行事は別表 (3) の通りである。

(サポート係)

令和 2 年度の千歳療護園は生活介護 50 名(現在の入所実人数 40 名・通所 10 名)短期入所 2 名で構成されており、短期入院 4 名、長期入院 1 名、新規入所(1 名)であった。

利用者様の健康面に於いては、誤嚥性肺炎を防ぐ取り組みとして、吸引ブラシによる口腔ケアを継続して実施している。

夜間巡回の強化(息遣いの確認・確認表)し様子観察のできる環境の設置・緊急事態に対応出来るよう職員の意識向上に努めた。特に各疾患(心肺停止・転倒・骨折・出血・カテーテル抜去、破損時の対応・チアノーゼ・嘔吐・熱発)のマニュアルを作成し、緊急時に備えている。また、利用者様の体調の変化についても看護課との連携を図っている。

緊急事態宣言が発令されたことにより、通常的面会から窓越し面会、タブレット端末を使用したオンライン面会を行っている。また、園内での手指消毒の徹底やドアノブ等の消毒を行っている。令和 3 年 2 月 24 日には、新型コロナウイルス感染症対策として、職員全員の PCR 検査を行っている。結果、全職員陰性であった。今後も新型コロナウイルスが終息するまでこの現状を維持できるよう利用者様、職員一人ひとりが感染予防を周知徹底する。

法人行事では、新型コロナウイルスの影響により、盆踊り大会、運動会が中止となった。代わりに園内初の試みとして、花火鑑賞会(ナイヤガラの花火や噴水式の花火)を楽しんでいただいた。また、各施設でのレクリエーション会が行われ利用者様に変喜ばれた。

アクシデント報告については、17 件と多く発生した。中でも転倒事故が 12 件、他では転落や外傷事故、カテーテルの抜去が発生している。今後も介助方法について意識向上と改善、利用者様一人ひとりの体調の変化に心掛ける必要がある。

利用者様の生活面に於いては、園での行事(開園記念日・秋のお茶会・忘年会・節分等)の他に、QC 活動の一環として、ドライブ外出も行っており、利用者様から喜びの声を多くいただいた。また、一人ひとりに合った個別支援活動を毎日行っているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、制限がある中での活動(園内外の散歩、ドライブ外出、カラオケ、DVD 視聴)を実施している。

7 月に電動ギャッジベッド 6 台、1 月には天井走行リフトを導入した。これは職員の身体への負担が軽減されると共に、利用者様の安心できる生活の提供にも繋がっている。

来年度は法人のテーマである「原点回帰更に勇往邁進」を基に、目標や目的に向か

って恐れる事なく真っ直ぐに進む気持ちを忘れずに業務にあたって行きたい。

(2) 訓練支援課

千歳療護園では、男性 24 名、女性 17 名、計 41 名の利用者様に対し、理学療法士 1 名、訓練支援員 1 名(兼任)で、利用者様一人あたり 1 回 40 分の個別訓練を週 1~2 回実施した。

内容としては、利用者様の高齢化に伴い機能低下がみられるため、残存機能の維持を心掛け、体力・筋力の維持、関節可動域の維持を目的に行った。具体的には、個別の能力に合わせた動作運動、筋力維持運動や関節可動域維持運動を行った。筋緊張の強い利用者様には、ストレッチやマッサージにてリラクセーションを行い筋緊張の緩和をはかった。身体の痛みがある利用者様には、ホットパックやマッサージを行い痛みの軽減・緩和に努めた。また、座位保持の維持や上肢の巧緻動作維持を目的に、パズルやトランプ、スキルスクリーン等の作製を取り入れた。

個別にかかわることで利用者様の希望・要望に沿えるよう心掛け、利用者様の話を傾聴し、気分転換に外に散歩に出かける等、コミュニケーションをはかりながらストレスの解消や情緒の安定をはかり、精神面から起きる機能低下防止にも心掛けた。

補装具全般の交付・修理申請手続きを行い、車椅子・電動車椅子・座位保持装置・下肢装具等の作製・修理にも携わっている。令和 2 年度では、車椅子の交付申請 2 件、修理申請 6 件、補装具の交付申請 1 件、修理申請 2 件、福祉用品の購入 2 件の手続きを行った。

(訓練内容)

- 関節可動域運動
- 基本動作運動(寝返り・起き上がり・立ち上がり・立位保持・歩行等)
- 姿勢保持運動(座位バランス・立位バランス等)
- 日常生活動作運動(車椅子駆動・移乗動作等)
- 体力・筋力維持運動(腹筋運動・四つ這い運動・立ちかがみ運動等)
- 巧緻動作運動(パズル・ひも通し・スキルスクリーン等)
- リラクセーション(マッサージ・ホットパック等)

(3) 相談支援課

《概況》

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の為に、日常の生活様式を変えざるを得ない年になった。令和2年4月と令和3年1月に緊急事態宣言が発令、法人においても基本指針を策定しそれに沿った対応を行った。対応策として3密(密集、密接、密閉)を避ける、マスク着用、こまめな手洗いと消毒、不要不急の外出を控える等の新しい生活様式となった。その為、外泊、面会、外出の自粛や法人行事が中止となる中、利用者様にとっては、ストレスの多い日々だったのではないかとと思われる。

相談支援課は、両施設兼務での業務を継続した。一般生活支援業務(食事、入浴、排泄、移動等)での関わりを深めながら利用者様お一人おひとりの一日の生活の流れ、身体面、精神面、対人面などを把握することに努めた。また、利用者様お一人おひとりと個別活動や集団活動を通してコミュニケーションを図り、更なる信頼関係の構築にも努めた。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の対策により、三密を避けるために集団活動を中止、個別活動を中心に対応し、ストレス解消や気分転換を目的に支援を行った。終息の見えない新型コロナ対策の為に不平、不満を貯めつつ、閉塞感のある日常を生活するにあたって、心のバランスを保つことの難しさ、何気ない一言や行為にこれまでなら我慢できていたことができずに感情的になってしまふ、また知らず知らずのうちに心と体のバランスが崩れた感覚に陥った生活だったのではないだろうか。そういった利用者様に寄り添うために、お一人おひとりの居室に伺い、こころの部分では密に繋がっているという事を感じてもらい、穏やかな気持ちで生活できるように支援を行った。

(支援内容)

- ①面談活動(カタルシス)
- ②散歩療法(発散、リフレッシュ)
- ③表現療法(遊び活動、自己表現、生きがい、興味拡大、信頼関係)
- ④ポジショニング(リラクゼーション、慢性痛の軽減、QOLの拡大等)
- ⑤前頭前野活性化法(読み聞かせ、公文カード、ドリル等)
- ⑥介護全般
- ⑦メンタルヘルス(ドライブ外出、カウンセリング)
- ⑧環境整備、その他

(4) 看護課

障害者支援施設に於て利用者様の高齢化に伴い、障害の重度化・重複化・疾病の多様化により、医療ニーズを抱える方も増加傾向であり、協力病院との連携が必要不可欠な状況です。園内でも、常日頃から多職種との協働・連携を取り、情報共有を行い、医療的ケアを安全・安心に提供できるように努めると共に新型コロナウイルス感染症予防対策に努めます。

《令和2年度》

- | | | |
|-----------------|----------|-------------|
| ① 委託入院 | 聖マリア病院 | 3件 |
| | 田主丸中央病院 | 7件 |
| | 久留米大学病院 | 1件 |
| ② 医療ケア | 膀胱瘻 | 2名 |
| | 経管栄養（胃瘻） | 1名 |
| | 吸入 | 1名 |
| | ストーマ | 2名 |
| | 留置カテーテル | 2名 |
| ③ インフルエンザ予防接種 | | 39名 |
| ④ 肺炎球菌予防接種 | | 3名 |
| ⑤ 千歳療護園 年齢別入所者数 | | 令和3年3月31日現在 |

年齢	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	計
利用者	2	2	3	20	10	4	41
(%)	5	5	7.5	50	25	10	102.5

- ⑥ 千歳療護園 病類別入所者数 令和3年3月31日現在

病名	人数	病名	人数
脳性麻痺	31	脳脊髄膜炎	1
頭部外傷後遺症	1	脳挫傷後遺症	2
精神遅滞（重度）	1	クモ膜下出血後遺症	1
進行性ミオクローヌスてんかん	1	重度知的障害	1
脳梗塞後遺症	1		
脳出血後遺症	1		

別表 (1)

地域別入退園者状況表

令和2年度

	区分 福祉名	前年度末 人員	本年度 入所人員	本年度 退所人員	本年度末 人員	性別		備 考
						男	女	
町 村 福 祉 関 係	志 免 町	1			1		1	
	上 陽 町							
	大 木 町							
	広 川 町	1			1	1		
	那 珂 川 町							
	星 野 村							
	矢 部 村							
	苅 田 町							
	筑 前 町							
	福 智 町							
	小 計	2			2	1	1	
市 福 祉 関 係	福 岡 市	2			2	1	1	
	北 九 州 市	2			2	2		
	大 牟 田 市	2			2	2		
	久 留 米 市	10	1		11	7	4	
	直 方 市							
	飯 塚 市							
	田 川 市	2			2		2	
	柳 川 市	4			4	2	2	
	宗 像 市	1			1	1		
	八 女 市	2			2	1	1	
	筑 後 市							
	大 川 市	3			3	1	2	
	小 郡 市							
	筑 紫 野 市	1			1	1		
	春 日 市	1			1		1	
	大 野 城 市							
	糸 島 市	1			1	1		
	山 田 市							
	行 橋 市							
	豊 前 市							
	中 間 市							
	古 賀 市							
	う き は 市	4			4	1	3	
朝 倉 市	2			2	2			
み や ま 市	1			1	1			
福 津 市								
	小 計	38	1		39	23	16	
	日 田 市							
	佐 賀 市							
	佐 賀 中 部							
	小 計	0	0	0	0	0	0	
合 計		40	1	0	41	24	17	

別表 (2)

週 生 活 表

千歳療護園

曜日	月	火	水	木	金	土	日
時間							
6:30	起床						
8:00	着替・洗面・移動 朝食						
9:00	移動・排泄・歯磨き (朝礼・申し送り) (寝具交換・掃除)						
9:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	園長懇談会 (月最終日曜日)
10:30	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練	【生花】	
11:00							
12:00	昼食 移動・排泄・歯磨き						
13:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	
14:00	カラオケ 活動	個別支援	個別支援	個別支援 ちとせ会 職員懇談会	個別支援	個別支援	
15:00	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練		
16:00			暖和会				
16:20							
17:00	※入浴は、週2回と3回を隔週で行い、男女各2グループに分け、1ヶ月交代で午前と午後を入れ替えて実施						
18:00	夕食						
19:00	歯磨き(自立者一部)、後片付け、排泄 着替え、自由時間 歯磨き						
20:00	消灯						
21:00							
	○月曜日 カラオケ活動 ○火曜日 個別支援活動、DVD鑑賞、ネイルボランティア(月1回) ○水曜日 療育会議(外部講師・カンファレンス・園長講義)暖和会(第2週)、DVD視聴活動、個別支援活動 ○木曜日 ちとせ会・職員懇談会(第2週)、個別支援活動、DVD視聴活動 ○金曜日 DVD視聴活動、個別支援活動 ○月行事 体重測定(第一日曜)、出張散髪(最終月曜日)利用者と園長懇談会(最終日曜日)利用者買物(2週間に1回)、生け花(第3土曜日) ○隔月 防災教育、避難訓練、味彩クラブ(給食会議)						

別表 (3)

年間実施行事記録表

令和2年度

月	日	行事等	月	日	行事等
4	9	開園記念行事	10	7	花火鑑賞会
	20	出張散髪(斉田)		26	出張散髪(斉田)
		28		レクリエーション大会	
5	23	生け花	11	7	生け花
				12	秋のお茶会
				17	出張散髪(田中)
				27	うきは消防署・安全協会からの贈呈式
		30		出張散髪(斉田)	
6	22	出張散髪(斉田)	12	16	忘年会
7	4	生け花	1	16	生け花
	14	出張散髪(田中)			
	27	出張散髪(斉田)			
	29	おやつデコレーション会			
	30				
8	4	第二千歳開園記念日	2	24	お楽しみ会
	13	安全対策防災教育			
	24	出張散髪(斉田)			
	27	納涼祭			
9	19	生け花	3	20	生け花
	24	花火観賞 ※天候不良で延期		29	出張散髪(斉田)
	28	出張散髪(斉田)			

【実習生受け入れ状況】

本年度の実習生受け入れは、コロナウィルス感染予防の為、中止している。

別表(4)

日常生活動作の介護状況

生活動作	区分	男	女	計
食 事	自 立	4	2	6
	一部介助	11	10	21
	全介助	9	5	14
起 坐	自 立	4	5	9
	一部介助	3	9	12
	全介助	17	3	20
立ち上がり	自 立	1	2	3
	一部介助	6	6	12
	全介助	17	9	26
排 泄	自 立	2	1	3
	一部介助	4	6	10
	全介助	18	10	28
更 衣	自 立	2	1	3
	一部介助	3	4	7
	全介助	19	12	31
入 浴	自 立	0	0	0
	一部介助	5	2	7
	全介助	19	15	34
歩 行	自 立	1	0	1
	一部介助	0	2	2
	全介助	23	15	38
寝返り	自 立	7	5	12
	一部介助	3	6	9
	全介助	14	6	20
車椅子使用	自 立	4	4	8
	一部介助	13	9	22
	全介助	7	4	11

生活動作	区分	男	女	計	
夜間処遇	排便排尿	1回	6	5	11
		2回	6	7	13
		3回	4	1	5
		4回	5	1	6
		小計	21	14	35
	服 薬	1回	10	5	15
		2回	0	0	0
		3回	0	0	0
		小計	10	5	15
	体位変換	1回	2	2	4
		2回	1	0	1
		3回	1	0	1
		6回	0	0	0
		小計	4	2	6
おむつ使用	昼・夜	3	1	4	
	夜間のみ	2	4	6	

- ・食事⇒配膳された状態で、魚の骨取りも含む。
- ・排泄⇒排泄後の処置、女性は生理処理も含む。
- ・更衣⇒ホックなど、着脱が行ない易く改良した衣類を使用して。
- ・入浴⇒一部自立とは、浴槽の中に独力で入っていることが出来たり、洗体の一部が出来る事。

(5) 通所支援課

障害者支援施設千歳療護園の通所事業として日中活動（生活介護）を実施した。現在、久留米市、うきは市、朝倉市を事業実施地域としてサービスを提供している。令和3年3月31日現在の、支援センター利用契約者様は15名で、内訳は下記の通りである。

久留米市	9名
うきは市	6名
朝倉市	0名

※現在、2名が家庭の事情により医療機関への入院また長期のショートステイの状態にある。支援センターとの契約はご家族様の意向もあり継続している。

今年度は、延べ 1,488名の方が利用され、1日平均6.1名の利用があった。内訳は下記の通りである。

久留米市	673名
うきは市	815名
朝倉市	0名

延べ利用人数は前年と比較すると74名の増となった。

今年度は、新型コロナウイルス感染症により見学や支援学校の実習が出来なかったこともあり、新規の利用者様を獲得することが困難だった。契約者様は15名と変わらずだった。現在19歳から67歳（男性7名女性8名）の方が利用している。

☆障害支援区分、主たる起因疾患別年齢表は、別表(A)の通りである。

☆月別・市別利用者数表は、別表(B)の通りである。

今年度は、昨年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響により5月には緊急事態宣言が発令され感染症対策を行いながら通所業務を行う。

まず、緊急事態宣言中は1日の利用人数が7名以上の曜日については、利用日数の多い利用者様のご家族に緊急事態宣言中利用日数を減らすご協力をお願いをし、1日5～6名の利用者様での通所を行う。この間は、休んで頂いた利用者様には電話で心身の状態と生活状況を確認し記録を残す。感染症対策としてマスク着用のお願い、送迎時は朝の検温・移動時の換気千歳に到着後の手指消毒の徹底。検温時に37.5℃以上の時には利用を控えて頂く。日中は、室内換気・人との間隔を空けて過ごしていただきテーブルには飛沫防止のビニール盾を置いて対応し活動や創作活動、個別

的機能訓練を実施した。また、発熱があった場合は解熱後24時間の様子観察後、風邪症状等なければ利用を再開して頂く事をご家族にお願いした。送迎終了後は、室内・トイレ・送迎車内の清掃と消毒を行い緊急事態解除後は、利用人数は通常に戻し対応については継続して業務を行った。3月からは、コロナ対策費より車両を1台購入し車内での蜜を避けながら送迎を行っている。

6月より久留米市の利用者様が1名65歳を迎えたことで介護保険への移行となられたが、利用者様より引き続き千歳療護園の通所を利用したいとの希望があり、介護保険の共生型サービスでの利用となられる。

本年は、他施設との交流を行う事が難しくまた、活動についても蜜を避ける為の対応が難しかった。天気の良い日には散策を行ったが、室内での対応が多くなった。

日中活動の支援内容

○身体介護 食事、入浴、排泄、移動、移乗介助

○創作的活動、文化的活動、社会適応訓練（個別活動・グループ活動）

<手工芸>

- 折り紙細工 花、小物、輪飾り
- 小物づくり 編み物、キーホルダー
- 造形 紙、布、ボタン、テープや毛糸、木の実など様々な材料を利用

○ジグソーパズルなど

<習字、読み、書き> 毛筆、読み書き練習、模写、作詞 詩

<制作> 貼り絵 自由画、ぬり絵、折り紙制作など

<外出> ドライブ

○機能訓練

日常生活動作訓練、四肢他動・抵抗運動、器具運動、積み木、紐通

○スポーツ、趣味娯楽活動

ポケネット、輪投げ、ナンバーストライク、トランプ、オセロ、ジェンガー、ビー玉、おはじき、DVD鑑賞など

○更生相談

利用者様の要望や必要に応じて医療、福祉、介護等の相談を行っている。

別表 (A) 令和 2 年度

障害程度区分表

千歳療護園 通所支援課

年齢 \ 区分	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
19 歳以下			1			1
20～29				1	4	5
30～39						0
40～49			1	1	2	4
50～59		1	1		1	3
60～64				1		1
65 歳以上		1				1
計		2	3	3	7	15

主たる起因疾患別年齢表

病名 \ 年齢	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	計
	脳性麻痺	脳血管障害	脊髄損傷	頭部外傷	特定疾病	特定疾患	リウマチ	進行性筋萎縮症	その他	
(1) 19 歳以下	1									1
(2) 20～29	3								1	4
(3) 30～64	2	1			1				4	8
(4) 65 歳以上		1							1	2
計	6	2	1		1				5	15

別表 (B) 令和 2 年度 月別・市別利用者数表

千歳療護園 通所支援課

月	利用 日数	利用 者数	1 日 平均
4	21	120	5.7
5	17	93	5.4
6	22	154	7
7	21	108	5.1
8	18	105	5.8
9	20	117	5.8
10	22	151	6.8
11	19	129	6.7
12	21	138	6.5
1	19	110	5.7
2	18	122	6.7
3	23	141	6.1
計	241	1488	6.1

月	久留米市			うきは市			朝倉市		
	全 体	男	女	全 体	男	女	全 体	男	女
4	55	25	30	65	31	34	0	0	0
5	52	25	27	41	20	21	0	0	0
6	82	33	49	72	35	37	0	0	0
7	61	24	37	47	24	23	0	0	0
8	47	32	15	58	29	29	0	0	0
9	46	19	27	71	31	40	0	0	0
10	64	34	30	87	40	47	0	0	0
11	55	25	30	74	33	41	0	0	0
12	58	24	34	80	35	45	0	0	0
1	40	17	23	70	32	38	0	0	0
2	51	24	27	71	32	39	0	0	0
3	62	28	34	79	41	38	0	0	0
計	673	310	363	815	383	432	0	0	0

令和2年度 出張報告

日付	出張用件	出張先	参加数
5/1	身障協正副会長 WEB 会議		1名
7/2～4	天皇皇后両陛下ご接見	東京都	1名
7/7	県経営協総務委員会 WEB 会議		1名
7/10	常任協議会 WEB 会議		1名
7/16	施設協議会会長会議		1名
7/21	経営協九州ブロック会議	福岡市	1名
7/31	厚生労働省 WEB 会議		1名
7/29	九障協サービス向上委員 WEB 会議		2名
8/3	全国大会実行委員会 WEB 会議		1名
8/4	県経営協 WEB 会議		1名
8/20	全社協施設協議会連絡会 WEB 会議		1名
8/21	ライフスキュー久留米連絡会	久留米市	1名
9/1	愛隣館との WEB 会議		1名
9/10	県社協施設委員会 WEB 会議		1名
9/11	九障協 WEB 理事会		2名
9/14	身障協正副会長 WEB 会議		1名
9/17	施設協連絡会 WEB 会長会議		1名
10/1	福障協幹事会 WEB 会議		1名
10/8・15	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程(チームリーダーコース)	春日市	1名
10/13	厚生労働省 WEB 会議		1名
10/20	ICT 導入モデル事業に係る ICT 導入研修会	久留米市	1名
10/22	ライフスキュー WEB 会議		1名
10/23	県経営協総務委員会 WEB 会議		1名
10/28～30	社会福祉推進議員連盟及び常任協議員会	東京都	1名

11/11	県経営協総務委員会 WEB 会議		1 名
11/12	全社協 WEB 理事会		1 名
	働き方改革 WEB セミナー		1 名
11/17	全国大会実行委員会 WEB 会議		2 名
11/18	自民党 WEB ヒアリング		1 名
	アカウンターマネジメント研修	春日市	1 名
11/19	全社協施設協連絡会 WEB 会長会議		1 名
	障害関係種別 WEB 会長会議		1 名
11/20	ライフスキュー久留米連絡会	久留米市	1 名
11/26	福岡県災害支援ネットワーク会議	春日市	1 名
	福利厚生センター WEB 会議		1 名
11/30	県意見交換会	福岡市	1 名
12/1	全国大会実行委員会 WEB 会議		2 名
12/2	公明党ヒアリング (WEB)		1 名
12/3	九障協 WEB 理事会		2 名
12/10	常任協議員会 WEB 会議		1 名
12/11	福岡県相談支援従事者現任者研修更新者	福岡市	2 名
	働き方改革 WEB セミナー		2 名
12/14	福障協施設長会 WEB 会議		2 名
12/17	施設協連絡会 WEB 会長会議		1 名
12/22	全社協正副会長会議 WEB		1 名
12/24	サービス管理責任者基礎研修 (e ラーニング)		1 名
1/8	正副会長 WEB 会議		1 名
1/13	働き方改革 WEB セミナー		2 名
1/13・14	福岡県相談支援従事者現任者研修 (更新者コース)	福岡市	2 名
1/14	正副会長・委員長 WEB 会議		1 名
	厚生労働省との WEB 会議		1 名

1/18	県経営協 WEB 協議員会		1名
1/21	施設協連絡会 WEB 会長会議		1名
1/25・26	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程(管理職員コース)WEB		1名
1/27	福岡県サービス管理責任者基礎研修(後期)	春日市	1名
1/29	働き方改革 WEB セミナー		2名
2/1	厚生労働省 WEB 会議		1名
2/2	全国大会三役会 WEB 会議		2名
2/10・11	災害福祉支援 WEB セミナー		1名
2/9	福岡県相談支援従事者現任者研修(更新者コース)	福岡市	2名
2/10	県経営協 WEB セミナー		1名
	働き方改革 WEB セミナー		2名
2/11・12	障害者虐待防止リーダー職員研修会(WEB)		2名
2/12	全国大会実行委員会 WEB 会議		2名
2/17	九障協 WEB 理事会		2名
2/18	施設協連絡会会長 WEB 会議		1名
2/19	働き方改革 WEB セミナー		2名
2/22	常任協議員会(WEB)		1名
3/1	厚生労働省 WEB 意見交換会		1名
3/4	働き方改革 WEB セミナー		2名
3/5	身障協 WEB 協議員総会		1名
3/9	全社協 WEB 理事会		1名
3/10	県身障協 WEB 役員会		1名
3/10・14	障害者虐待防止リーダー職員研修会		2名
3/11	業務目標の設定・管理・達成研修		1名
3/15～	身障協 経営 WEB セミナー		35名
3/18	施設協連絡会 WEB 会長会議		1名
3/19	全国大会実行委員会 WEB 会議		2名

3/22	福祉サービス苦情解決従事者研修会		1名
3/24	県身障協 職員研修会		1名
3/25	福障協幹事会・施設長会		2名
3/30	九障協 WEB 理事会		1名
3/31	日本栄養士会 WEB 会議		1名

第二千歳療護園

《概況》

今年の新語・流行語大賞の年間大賞は「3密」、また、今年の漢字は「密」が選ばれ、その他に「アベノマスク」、「アマビエ」、「オンライン〇〇」、「GoTo キャンペーン」や「禍」、「病」等が流行語や今年の漢字の候補にあがっており、日本国内、世界中で新型コロナウイルスに翻弄された年であった。法人の「新型コロナウイルス感染予防対策基本指針」の下、利用者様やご家族には、面会、外出、外泊自粛、禁止等への協力、また職員に対しても、県外をまたぐ不要不急の外出、外食、会食等の自粛、行動履歴の記録実施等の負担を強いる事となり、毎年実施されていた恒例行事の盆踊り花火大会や運動会をはじめ、施設内の外出行事は全て中止せざるを得ない状況となった。しかし、利用者様、ご家族、職員の理解と協力のおかげで、これまで利用者様、職員に誰一人として感染者を出すことなく生活を送ることができている。今まで当たり前に行われていた面会や外出が外泊自粛の影響により精神的に不安定になられる利用者様もおられ、前年度とは全く変わってしまったコロナ禍の生活の中で、窓越し面会やオンライン面会の実施、食事用テーブルにパーティション設置、食堂とトイレに空気清浄機の設置、車外に出ないドライブ外出やレクリエーションの充実等、感染予防対策を行いながらも利用者様のストレス解消を図りながら安心して快適に生活を送っていただく為の新しい生活様式を模索し続けた年であった。

権利擁護・障害者虐待防止法・障害者差別解消法については、インカムの使用を継続しており、夜間帯でのコール対応についても同性での対応を心掛け、完全な同性介助の実現に向け努力している所である。

防災面として、7月の豪雨、9月初旬の過去最大級といわれた台風10号への備えとして、利用者の命を守る為、夜勤者に加え数名の夜間待機職員を配置し、不測の状況にも対応できるよう備えてきた。

職員の腰痛・離職問題については、昨年度に続き3モーター電動ギャジベッドを6台導入、床式走行リフト使用の利用者増加に加え、丸紅基金の助成を受けて2月中旬に浴室・脱衣室天井走行リフトを導入し、利用者様、職員に好評を得ており、利用者様への安心安全な介護の提供、職員の負担軽減を行ってきた。今後も福祉機器を使った利用者様の介護時の身体への負担軽減及び安心・安全の確保、職員の介護スキルの向上、負担軽減を目指すべくノーリフトケアに向けた取り組みを継続していきたい。

久留米市の「障害福祉分野のICT導入モデル事業」として、見守り支援システム

『眠りスキャン』を導入し、夜間帯に急変の可能性のある利用者様に使用して頂いている。また、「コロナウイルス対応策緊急包括支援事業」として、利用者様に感染、感染疑いが出た時の隔離や一時的な倉庫として使用する『多機能型簡易居室』を建設した。

未だに新型コロナウイルスの終息時期が見通せない中、今年のゆかり学園のスローガンである「原点回帰・更に勇猛邁進」を支えとして法人全体がひとつになって、この状況を乗り切らなければならないと思う。

総務部

<第二千歳療護園 総務課>

1. 本年度の各事業別利用状況

【施設入所支援：定員 40 名】

定員延数 14,600 名 年間実利用者数 14,118 名 充足率 96.7%、

1 日平均利用者数 38,6 名

【生活介護：定員 40 名】

定員延数 10,440 名 年間延べ利用者数 10,098 名 充足率 96.7%

【短期入所：定員 2 名】

1 名の利用者様が、年間延べ 295 日間利用。

(令和2年6月12日より久留米市在住の方1名を緊急短期入所で受け入れている)

【日中一時支援】

利用なし

【入院・外泊者】

入院延日数 451 日間、退園 1 名による減数 31 日間。

入院状況として利用者様の高齢化や障害の重度化、身体機能の低下等により様々な疾患にかかるリスクが高くなり、一度入院されると長期化したり、入退院を繰り返す傾向が窺えた。

尚、令和3年3月31日現在の入院者数は1名である。

外泊については新型コロナウイルス感染拡大防止のため自粛して頂いており該当なし。

【退所】

令和3年2月28日付、1名退園されている。

2. 本年度の地域別入退園状況は別表（1）の通りである。

別表（1）本年度の地域別入退園状況

生活部

（1）生活支援課

（パートナー係）

個別支援計画のニーズを中心に利用者様の立場に立った利用者様本位のサービス提供を基本において、月一回の自治会役員との話し合い（暖和会）や職員との懇談会、利用者様の話し合いの場（ちとせ会）を通して、利用者様の自主性・選択性・対等性を尊重しながらサービス提供を行ってきた。

今年度は2月に発生した新型コロナウイルス感染拡大により外出時のマスクの着用、手洗い、消毒の徹底、密の回避など利用者様の生活の在り方も大きく変わった年であった。感染の拡大により、利用者様のニーズとして最も楽しみとされている外出（買物・食事）ができず、2週間に1回の買い物代行、ネットでの購入にとどまっている。毎年恒例の盆踊り花火大会や運動会をはじめ、ナイター観戦、サーカスなどの招待への参加の他様々な行事も中止となっている。ご家族との外出・面会も一時中止とさせていただき、外部と遮断された状態が続く中、利用者の皆様には少しでも気分転換となるよう、また安心して楽しんでいただける様に、日中活動としてビデオ視聴、カラオケ、個別活動を継続する他に様々な行事やレクリエーションを各委員会で試行錯誤しながら行っている。（花火鑑賞・開園記念・納涼祭・焼き芋試食会・忘年会・お楽しみ会・ドライブ外出など）

今年度はネイルボランティアをはじめ理・美容の訪問もご遠慮いただいているが、活動として行っている月一回の生け花は、完成した作品を千歳、第二千歳、渡り廊下などに飾り、季節の花を皆様に楽しんでいただいている。

今年度は保険証の更新などの手続きの他に全ての利用者様の特別定額給付金の手続きも行っている。また、高齢化に伴い医療的ケアを要する利用者様も増え、入院時支援、入退所に伴う手続きも増加傾向にあった。

ゆうかり学園新型コロナウイルス感染予防対策基本指針に沿って感染予防対策を行う中、一時中止させていただいていた面会は、コロナの感染状況を観ながら窓越し面会、オンライン面会を行っている。感染状況を見極めながら利用者様、ご家族に少しでも不安なく生活を送っていただける様、最善の努力をしていきたい。来年は新型コロナウイルス感染症が終息し、自由な外出が可能となることを願っている。

☆ 週生活表は別表（2）、年間実施行事は別表（3）の通りである。

（サポート係）

施設入所支援 40 名、生活介護 40 名、短期入所 2 名。現在、男性 22 名、女性 17 名（最少年齢 34 歳、最高年齢 88 歳、平均年齢 59 歳、退園 1 名、入院中 1 名、短期入所(ロングステイ)1 名、3/31 現在)の方の日常の生活介護・精神的支援、個別のニーズに沿った支援を行った。

今年度も、サービス管理責任者を中心に、利用者様の自立支援を目標に、ケアプランの作成・実施・検討を行いながら日々の支援を行った。

今年度、第二千歳療護園は開設 7 年目を迎え、利用者様の平均年齢も 59 歳を超え、加齢に伴い身体の機能低下も著しく見られ、介護や医療を必要とする場面が多くなって来ている。健康維持(誤嚥性肺炎予防など)を目的とした口腔ケアの実施を継続して行った。しかし、1 名の方が慢性的な誤嚥性肺炎で長期入院となり治療を行っていたが、医療的ケアが必要となり退園となった。

新型コロナウイルス感染予防に於いては、社会福祉法人ゆうかり学園新型コロナウイルス感染予防対策基本指針を下に対策を行った。感染防止対策としては、食堂テーブルパーテーション、手指消毒の徹底、感染症用保管倉庫棚制作、排泄物汚染リスク場面でエプロン着用、入所・居住系施設等へ感染症予防専門家派遣事業(9/29 実施)、食堂やトイレの共有スペースに空気清浄機、コロナ感染時フローチャート作成などコロナ感染防止対策に万全を尽くした。

防災に関しては、7 月に入り連日豪雨が続き、筑後川および近隣の巨瀬川の水位が上昇し氾濫危険水位を超え危険な状況となったため、防災対策委員会を中心に本部長指示の下、緊急時の対策をとった。筑後川氾濫時のハザードマップを再確認し大雨洪水対策での利用者の避難場所はそのままだベッド上にて待機及び状況により耳納学園への避難に変更された。また、夜間避難指示が出た場合に、利用者を守るための人員確保として夜勤者に加え、数名の夜間待機職員を募り万が一に備えた。連日豪雨が続き体制を継続したが、幸い河川の氾濫もなく豪雨による被害はなかった。また、9 月には、気象予報で過去最大級といわれた台風 10 号(9 月初旬)の対策を取った。窓ガラスを養生テープで補強、南側に面している居室利用者に関してはより安全確保が出来る廊下に避難し就寝、また、豪雨時同様に夜間待機職員を配置し利用者を守る体制を整えた。幸い施設及び利用者への被害はなかったが、今後も防災体制を強化していかなければならない。

福祉機器に於いては、今年度も、電動ギャッジベッドを 6 台導入(計 12 台)、昨年度には床走行リフトを導入、また、本年度に於いては、丸紅基金より助成を受け浴室天井走行リフトを設置した。早速有効活用させて頂いており、利用者の身体への

負担軽減および職員の腰への負担軽減を実感している。

法人の恒例行事である盆踊り大会および運動会がコロナ感染症に伴い中止となり、レクリエーション委員会と日中活動委員会にて多くの行事を企画し開催した。夏祭り風納涼祭、開園記念、花火鑑賞、レクリエーション大会、秋の茶会（焼き芋試食会）、忘年会など、恒例の行事に加え工夫を凝らした行事に利用者から好評を得た。個別活動でも、コロナ禍でストレスを抱えている利用者の気分転換を図る目的で施設周辺へのドライブ外出を計画し実施した。5つのコースの中から選んでいただきコロナ対策をとりながらドライブを楽しんで頂いた。

環境衛生委員会による定期的な花苗の植替えは利用者も楽しみにされており恒例活動となっている。

今後も多様化してくる利用者様のニーズに応えるべく、全職員で支援に取り組んでいきたい。

(2) 訓練支援課

第二千歳療護園においては、利用者様 40 名(男性 23 名・女性 17 名)に対し、理学療法士 1 名・訓練支援員 1 名で訓練を実施した。

利用者様 1 人あたり 1 回の訓練時間を 40 分とし、身体状況によって週 1~2 回実施した。個別に関わり状況に応じて居室を使用するなど、充実した訓練内容となるよう支援を行った。

訓練内容については、利用者様の高齢化に伴う身体機能の低下がみられるため、主に体力・筋力・バランス能力の維持、残存機能の維持、関節可動域の維持、拘縮の予防、痛みの軽減等を目的として実施した。訓練を行いながら利用者様の思いや不満を傾聴することで、ストレスの解消や情緒の安定にも務めた。また利用者様の希望される、折り紙や塗り絵等の制作活動や、バッティング、キャッチボールといった体を動かす活動、オセロやトランプ、パソコン(インターネット検索)等の趣味活動、散歩(屋内外)を行うことで、訓練時間をより楽しいものと感じていただけるよう関わり、訓練への参加意欲向上を図った。今年度はコロナ感染予防のため車椅子業者の施設内立ち入りが制限され、車椅子作製や修理、姿勢保持テーブル・クッション等の補装具作製が思うように出来ていない。

補装具の交付修理申請については、車椅子支給申請 2 名、修理申請 3 名、福祉用具購入 3 名について実施した。

(訓練内容)

- 関節可動域訓練

- 体力、筋力、バランス能力訓練
(腕立て、腹筋、背筋、スクワット、チューブトレーニング等)
- 巧緻動作訓練(パズル、はめ絵、折り紙等)
- 姿勢保持訓練(立位、座位バランス等)
- 日常生活動作訓練(車椅子移動、移乗動作等)
- 歩行訓練(歩行器歩行)
- 趣味活動(バッティング、ゲーム、パソコン等)
- リラクセーション(マッサージ、プロンキーパー等)

(3) 相談支援課

《概況》

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の為に、日常の生活様式を変えざるを得ない年になった。令和2年4月と令和3年1月に緊急事態宣言が発令、法人においても基本指針を策定しそれに沿った対応を行った。対応策として3密(密集、密接、密閉)を避ける、マスク着用、こまめな手洗いと消毒、不要不急の外出を控える等の新しい生活様式となった。その為、外泊、面会、外出の自粛や法人行事が中止となる中、利用者様にとっては、ストレスの多い日々だったのではないかとと思われる。

相談支援課は、両施設兼務での業務を継続した。一般生活支援業務(食事、入浴、排泄、移動等)での関わりを深めながら利用者様お一人おひとりの一日の生活の流れ、身体面、精神面、対人面などを把握することに努めた。また、利用者様お一人おひとりと個別活動や集団活動を通してコミュニケーションを図り、更なる信頼関係の構築にも努めた。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の対策により、3密を避けるために集団活動を中止、個別活動を中心に対応し、ストレス解消や気分転換を目的に支援を行った。終息の見えない新型コロナ対策の為に不平、不満を貯めつつ、閉塞感のある日常を生活するにあたって、心のバランスを保つことの難しさ、何気ない一言や行為にこれまでなら我慢できていたことができずに感情的になってしまいう、また知らず知らずのうちに心と体のバランスが崩れた感覚に陥った生活だったのでないだろうか。そういった利用者様に寄り添うために、お一人おひとりの居

室に伺い、こころの部分では密に繋がっているという事を感じてもらい、穏やかな気持ちで生活できるように支援を行った。

(支援内容)

- ①面談活動 (カタルシス)
- ②散歩療法 (発散、リフレッシュ)
- ③表現療法 (遊び活動、自己表現、生きがい、興味拡大、信頼関係)
- ④ポジショニング (リラクゼーション、慢性痛の軽減、QOL の拡大等)
- ⑤前頭前野活性化法 (読み聞かせ、公文カード、ドリル等)
- ⑥介護全般
- ⑦メンタルヘルス (ドライブ外出、カウンセリング)
- ⑧環境整備、その他

(4) 看護課

障害者支援施設に於て利用者様の高齢化に伴い、障害の重度化・重複化・疾病の多様化により、医療ニーズを抱える方も増加傾向であり、協力病院との連携が必要不可欠な状況です。園内でも、常日頃から多職種との協働・連携を取り、情報共有を行い、医療的ケアを安全・安心に提供できるように努めると共に新型コロナウイルス感染症予防対策に努めます。

《令和2年度》

① 委託入院	田主丸中央病院	6件
	聖マリア病院	4件
	くるめ病院	2名
	やました甲状腺病院	1件
	高良台病院	1件
	ゆううかり医療療育センター	1件
	② 医療的ケア	経管栄養 (胃瘻)
吸引		1名
吸入		1名
膀胱瘻		1名
留置カテーテル		2名
皮下注射		1名

③ インフルエンザ予防接種 36名

④ 肺炎球菌予防接種 1名

⑤ 第二千歳療護園 年齢別入所者数 令和3年3月31日現在

年齢	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	計
利用者数	0	1	4	16	7	12	40
%	0	2.5	10	40	17.5	30	100

⑥ 第二千歳療護園 病類別入所者数 令和3年3月31日現在

病名	人数	病名	人数
脳性麻痺	29	脳梗塞後遺症	2
先天性骨発育不全症	1	頭部外傷後遺症	1
高血圧性脳出血	1	糖尿病	1
脳炎後遺症	1	脳出血後遺症	1
白内障術後無水晶体眼・左眼球萎縮	1	精神発達遅滞	1
クーゲルベルグ・ヴェランダー病	1		

別表(1)

地域別入退園者状況表

令和2年度

	区分 福祉名	前年度末 人員	本年度 入所人員	本年度 退所人員	本年度末 人員	性別		備 考
						男	女	
町 村 福 祉 関 係	志 免 町							
	上 陽 町							
	大 木 町	2			2	1	1	
	上 毛 町	1			1	1		
	那 珂 川 町							
	星 野 村							
	矢 部 村							
	苅 田 町	1			1	1		
	筑 前 町	1			1	1		
	福 智 町	1			1		1	
小 計	6			6	4	2		
市 福 祉 関 係	福 岡 市	3			3	2	1	
	北 九 州 市	1			1	1		
	大 牟 田 市							
	久 留 米 市	10			10	5	5	
	直 方 市							
	飯 塚 市	2			2	1	1	
	田 川 市							
	柳 川 市	1			1		1	
	宗 像 市							
	八 女 市	1			1	1		
	筑 後 市							
	大 川 市	1			1	1		
	小 郡 市	1			1		1	
	筑 紫 野 市	2			2	1	1	
	春 日 市							
	大 野 城 市							
	糸 島 市							
	山 田 市							
	行 橋 市							
	豊 前 市							
中 間 市								
古 賀 市								
う き は 市	5		1	4	1	3		
朝 倉 市	4			4	3	1		
み や ま 市	3			3	2	1		
福 津 市								
小 計	34		1	33	18	15		
県 外	鳥 栖 市							
	日 田 市							
	佐 賀 市							
	佐 賀 中 部							
小 計								
合 計		40		1	39	22	17	

別表 (2)

週 生 活 表

第二千歳療護園

曜日	月	火	水	木	金	土	日
時間							
6:30	起床						
8:00	着替・洗面・移動 朝食						
9:00	移動・排泄・歯磨き (朝礼・申し送り) (寝具交換・掃除)						
9:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	園長懇談会
10:30	訓練	訓練	訓練	外出	外出	【生花】	
11:00	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練		
12:00	昼食 移動・排泄・歯磨き						
13:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	
14:00	訓練	訓練	定期診察	療育会議 外出 園長懇談会	訓練	外出 ちとせ会 職員懇談会	
15:00	訓練	訓練	暖和会	訓練	訓練	訓練	
16:00							
16:20	※入浴は、週2回と3回を隔週で行い、男女各2グループに分け、1ヶ月交代で午前と午後を入れ替えて実施						
17:00	夕食						
18:00	歯磨き(自立者一部)、後片付け、排泄						
19:00	着替え、自由時間						
20:00	歯磨き(介助者)						
21:00	歯磨き(自立者)						
21:00	消灯						
	○ 月曜日 ビデオ視聴・個別活動・製作活動・ドライブ外出・レクリエーション(月～土)						
	○ 火曜日 利用者買物(隔週) ネイルボランティア(毎月1回) 暖和会(第2週)						
	○ 水曜日 買物外出、療育会議(外部講師・カンファレンス・園長講義)						
	○ 木曜日 買物外出、ちとせ会・職員懇談会(第2週) 午後カラオケ						
	○ 金曜日 ビデオ視聴・個別活動・制作活動・ランチ外出・レクリエーション						
	○ 土曜日 生け花(第3週)						
	○ 日曜日 体重測定(第2日曜)						
	○ 月行事 出張散髪(第1週火曜日、最終月曜日)、園長との懇談会(水曜日又は木曜日)						
	○ 隔月 防災教育、避難訓練、味彩クラブ(給食会議)						

別表 (3)

年間実施行事記録表

令和2年度

月	日	行 事 等	月	日	行 事 等
4	1	千歳開園記念日	10	7	カラオケ 花火鑑賞
	17	カラオケ		17	カラオケ
	18	生花		28	運動会代替え(レクリエーション大会)
	20	出張散髪 さいだ		27	レクリエーション
	23	レクリエーション綿菓子		30	出張散髪 さいだ
5	21	レクリエーションたこやき	11	6	カラオケ
	28	カラオケ		12	秋のお茶会 焼き芋
				20	カラオケ
				25	レクリエーション
			30	出張散髪 さいだ	
6	18	レクリエーション	12	3	カラオケ
	20	生花		16	忘年会
	22	出張散髪 さいだ		17	カラオケ
	29	カラオケ		19	生花
7	14	出張散髪 田中	1	3	書初め
	16	カラオケ		4	カラオケ
	27	出張散髪 さいだ		27	レクリエーション
8	1	生け花	2	12	カラオケ
	13	カラオケ		20	生花
	24	出張散髪 さいだ		22	出張散髪 さいだ
	27	納涼祭		24	お楽しみ会
				26	カラオケ
9	10	カラオケ	3	9	カラオケ
	24	レクリエーション		11	レクリエーション
	28	出張散髪 さいだ		25	カラオケ
				29	出張散髪 さいだ

※新型コロナウイルス感染予防の為、ネイルボランティア、訪問理美容、利用者外出を中止。

【実習生受け入れ状況】

- * 介護実習
- * 介護等体験実習

※新型コロナウイルス感染予防の為、実習生の受け入れ中止。

(延べ人数 0名)

別表(4)

日常生活動作の介護状況

生活動作	区分	男	女	計
食 事	自 立	2	2	4
	一部介助	10	11	21
	全介助	10	4	14
起 坐	自 立	7	6	13
	一部介助	2	1	3
	全介助	13	10	23
立ち上がり	自 立	3	3	6
	一部介助	4	4	8
	全介助	15	10	25
排 泄	自 立	1	2	3
	一部介助	7	3	10
	全介助	14	12	26
更 衣	自 立	3	3	6
	一部介助	5	2	7
	全介助	14	12	26
入 浴	自 立	0	0	0
	一部介助	3	3	6
	全介助	19	14	33
歩 行	自 立	1	1	2
	一部介助	1	2	3
	全介助	20	14	34
寝返り	自 立	10	6	16
	一部介助	2	2	4
	全介助	10	9	19
車椅子使用	自 立	4	2	6
	一部介助	7	9	16
	全介助	9	4	13

生活動作	区分	男	女	計	
夜間処遇	排便排尿	1回	2	2	4
		2回	5	7	12
		3回	5	6	11
		4回	5	2	7
		計	17	17	34
	服 薬	1回	13	7	20
		2回	7	10	17
		3回	0	0	0
		計	20	17	37
	体位変換	1回	0	1	1
		2回	1	0	1
		3回	0	2	2
		6回	0	0	0
		計	1	3	4
おむつ使用	昼・夜	13	7	20	
	夜間のみ	1	3	4	

- ・食事⇒配膳された状態で、魚の骨取りも含む。
- ・排泄⇒排泄後の処置、女性は生理処理も含む。
- ・更衣⇒ホックなど、着脱が行ない易く改良した衣類を使用して。
- ・入浴⇒一部自立とは、浴槽の中に独力で入っていることが出来たり、洗体の一部が出来る事。

令和2年度 出張報告

日付	出張用件	出張先	参加数
8/21	第1回ライフレスキュー久留米連絡会定例会	久留米市	1名
9/9	国勢調査調査員（事務委託）説明会	久留米市	1名
10/8, 10/15	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 チームリーダーコース	春日市	1名
10/20	「令和2年度障害福祉分野のICT導入モデル事業」に係るICT導入研修	久留米市	1名
10/21	新型コロナウイルス感染症における久留米市との情報交換及び連携体制についての協議会	久留米市	1名
11/12	働き方改革WEBセミナー	WEB研修	1名
11/18	アンガーマネジメント研修	春日市	1名
12/11	福岡県身障協 第1回研修委員会	WEB会議	1名
12/20	働き方改革WEBセミナー	WEB研修	1名
1/13, 1/29	働き方改革WEBセミナー	WEB研修	1名
1/25, 1/26	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程管理職コース	WEB研修	1名
1/27	福岡県サービス管理責任者 基礎研修	春日市	1名
2/10, 2/19	働き方改革定例会	WEB研修	1名
2/8～2/19 3/3～3/12	障害者虐待防止リーダー職員研修会	WEB研修	2名
2/8～2/21	災害福祉支援セミナー（動画視聴型）	WEB研修	2名
3/11	業務目標の設定・管理・達成研修	WEB研修	1名
3/18～3/24	福祉サービス苦情解決従事者研修会	WEB研修	1名
3/3～3/31	福岡県身体障害者施設協議会 第1回施設長・職員研修会	WEB研修	3名
3/4	働き方改革WEBセミナー	WEB研修	2名

久留米市東部障害者基幹相談支援センター

1. 委託相談概況

委託相談では、担当の東部地区である山川、山本、草野、善道寺、大橋、船越、水縄、田主丸、水分、竹野、川会、柴刈の各小学校区エリアに在住の本人・家族からの相談対応を行った。今年度は新型コロナ感染対策のため、面談、同行、関係者会議などのアウトリーチ支援は前年度に比べると減少傾向となった。在宅時間が長期化したことにより、家族関係や人間関係に関する相談や、経済的な困窮や就労継続などに課題を抱えた相談内容が増加した。障害種別では精神に障害のある方からの相談が増加している。関係機関との連携では、行政各課や相談支援事業所との連携が多いが、生活自立センターや社会福祉協議会など、相談の対象者が幅広い機関との連携や協力が欠かせなくなっている。重層的な相談体制を構築していくとともに、障害当事者が地域で安心して生活していくためには、互助や共助の地域の社会資源開発が必要不可欠である。

委託相談から福祉サービス利用へとつながった方についてはほぼ計画相談支援へつなげることができたが、その後の計画相談支援のバックアップとしての委託対応も増加傾向にある。

【1】総合的・専門的な相談支援

○相談支援実績

相談件数 合計：783 件

相談方法	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	その他	合計
計	71	51	29	553	32	46	1	783

相談内容別件数合計数：1,005 件

相談内容	福祉サービスの利用等	障害や症状の理解	健康医療	不安の解消 情緒安定	保育教育	家族関係 人間関係	家計 経済
計	339	4	89	269	14	61	34

生活技術	就労	社会参加 余暇活動	権利擁護	その他	住宅	合計
56	120	4	6	8	1	1,005

○障害種別相談人数

実相談人数：261(36)件 ()内は児童

	身体障害	知的障害	精神障害	重症心身障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他	合計
計	43 (1)	74 (8)	124 (10)	0 (0)	17 (26)	19 (0)	14 (2)	1 (1)	292 (48)

※重複障害の場合があるため、実人数≦合計

○エリア別相談件数：783件

	東部	南部	北部	市外	県外	不明	合計
計	734	1	12	5	29	2	783

○関係機関との連絡・調整

合計件数：1,870件

	行政機関	就労機関	医療機関	福祉サービス事業所	居宅介護事業所	地域包括支援センター	相談支援事業所	教育機関
計	384	54	194	257	39	35	776	27

成年後見関係	住宅関係	療育機関	発達障害者支援センター	その他	合計
6	0	0	1	97	1,870

2. 基幹相談概況

今年度は新型コロナウイルスの感染対策を行いながら、相談支援事業所に対してサービス等利用計画作成についての指導、助言を行った。対応数は前年度、264件に対して今年度は306件であり増加傾向であった。

相談支援事業所に対する計画の繋ぎは昨年児・者合わせて18件、今年度は15件であった。昨年より微減であったが、セルフプランをできる限り利用することなく相談支援事業所へつなげることができた。

基幹研修は「これからの災害に備える」をテーマに、行政、相談支援専門員、久留米市社会福祉協議会より協力を得て、基幹ホームページでの配信研修として開催した。また、久留米市主催の八女筑後・久留米圏域相談従事者研修会もWebでの開催となった。

今年度は集合での会議、研修が減少した一方で、Zoom会議や配信研修などオンラ

インでの対応が増加した。

久留米市障害者地域生活支援協議会は、各部会の事務局として運営を行った。中でも東部基幹は、施策推進部会の重心分科会、こども分科会の事務局を担った。重心分科会は在宅の医療ケア者の災害時の避難方法について家族、地域支援者と協議を行った。また、停電時の電源確保や蓄電池取り扱いの勉強会を開催し災害発生時の対応を協議した。こども分科会では、子どもに関する支援者及び教育機関からのヒヤリング実施や、津福校区を中心としたケース会議開催に向けての話し合いを行った。

地域との連携では、包括センター主催の民生委員・児童員連絡会義や権利擁護地域ケア会議に出席することで、民生委員、児童委員と情報共有ができた。今年度は山本地区でも会議が開催され地域の支援者と情報共有が出来たとともに地域の特性を把握することが出来た。次年度は善道寺、山本、草野地区での連絡会議も実施予定であり、地域の実情を把握できる機会が増えると思われる。

【1】 指定相談支援事業者等に対する指導、助言

○支援内容：306 件

	基幹から計画相談依頼	事業所からのケース相談	会議等の出席	同行	情報共有	情報提供のみ	計画作成における助言	その他	合計
合計	15	10	48	42	157	18	12	4	306

【2】 サービス等利用計画作成の推進に伴う指定相談支援事業所への繋ぎ人数

	障害者	障害児
合計	10	5

【3】 久留米市障害者地域生活支援協議会について

分科会・部会名	開催回数
全体会	3
計画推進部会	5
権利擁護部会	開催無し
施策推進部会	1
重心分科会	4
こども分科会	1
相談分科会	5
当事者分科会	開催無し

【4】出張及び研修（5件）

筑後若者サポートステーション連携会議	(10月26日)
人権同和問題研修	(11月11日・12日)
八女筑後・久留米圏域委託相談支援事業所オンライン情報交換会	(1月21日)
令和2年度精神保健福祉関係機関連絡会議（オンライン）	(3月23日)

【5】主催研修（2件）

八女筑後・久留米圏域相談支援従事者オンライン研修会	(3月26日)
基幹研修「これからの災害に備える」オンライン配信	(3月/18日～3月26日)

【6】会議

基幹相談センター運営会議（第3木曜日）
基幹相談センター長会議（第1木曜日）
基幹研修ワーキング（不定期）
基幹月報・年報ワーキング（不定期）
サポートブック作成ワーキング（不定期）
地域生活自立支援協議会（全体会、権施策推進部会、相談分科会、重心分科会、こども分科会、各部会・分科会事務局会）
重症心身障害児者地域生活支援事業連携会議（年2回）
H・K圏域権利擁護個別支援地域ケア会議
田主丸地域民児協包括連絡会議（竹野校区、水縄校区、船越校区、水分校区、川会校区、柴刈校区、田主丸校区を各月ごとに開催）
山本校区地域民児協包括連絡会議
山本小学校生徒指導連絡会議
重層的支援体制整備に関するプレ会議
医療・教育・福祉施設等との関係者会議・個別支援会議

【7】連携した主な機関

医療機関(市内外)、東部エリア小・中学校、久留米市特別支援学校、田主丸特別支援学校、福祉サービス事業所(市内・外)、民生委員、児童委員、訪問看護事業所、相談支援事業所(市内・外)、久留米市役所(田主丸総合支所)各課、久留米市保健所、他市役所各課、地域包括支援センター、発達障害者支援センター、障害者・就業生活支援センター、幼児教育研究所、生活自立支援センター、市社会福祉協議会、若者サポートセンター、ハローワーク、法テラス、成年後見人、警察、NPO法人

委員会報告

- 苦情解決委員会
- 虐待防止委員会
- 安全管理委員会
- 医療機器安全管理委員会
- 医療ガス安全管理委員会
- 防災対策委員会
- 院内感染対策委員会
- 衛生委員会
- 広報委員会
- 療育会議運営委員会
- 福祉 QC 委員会
- ゆうかり医療療育センター防犯対策委員会

苦情解決委員会

《概況》

令和2年度苦情解決委員会は、施設ごとの定期委員会開催、苦情・要望への対応・調整・解決等に関しては迅速に取り組んだ。

今年度新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、法人委員会としては、12月に第三者委員への報告会、虐待防止委員、職員報告会は3月に書面での報告とした。特に第三者委員への報告会においては、守秘義務に配慮した上で苦情・要望記入票等を事前に第三者委員へ送付し、吟味して頂いた上で書面での質問、意見の返送とした。意見にはコロナ禍で日々利用者様へ支援を行う職員に対し暖かい労いの言葉を頂いた。

《苦情・要望件数》 令和2年4月1日～令和3年3月31日

	ゆうかり医療療育センター	コアラ園	耳納学園	千歳療護園 第二千歳療護園
1. 職員の言動・対応等に対する苦情	3	0	1	3
2. 施設への要望	1	0	1	1
3. 利用者様から要望	0	0	0	1
4. 保護者(後見人)よりの苦情	3	0	0	0
5. 利用者様同士の苦情	0	0	1	0

《基本的取り組み内容及び状況》

ゆうかり医療療育センターにおいては、職員の言動、対応等に対する苦情が保護者様と利用者様より4件あった。医療に対しての苦情では保護者様の思いに寄り添い、医師より説明対応して頂いたことで今後の治療方針に納得、同意された。

コロナ禍での利用者様、保護者様の精神的負担は大きく為、職員は思いを受け止め信頼関係を構築し、相談・苦情・要望に対して適切、迅速に対応していかなければならない。

コアラ園苦情解決マニュアルの内容確認を、会議等にて定期的に周知を図かった。

令和2年度は、特に苦情の届出等は無く、年度内に1回、保護者様へのアンケート調査を行い、アンケート結果に基づく要望等の改善策を記入し、コアラ園自己評価表としてホームページにて公表した。

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、4月15日～5月31日まで休園をする事となり、その期間、在宅支援として各保護者様への電話での相談、療育動画を入れたDVDや療育教材等を各自宅へ郵送するなどのサポートを行った。

また、お盆期間等に、感染者が多い地域への里帰りをされる保護者様に対して、帰宅後に2週間の登園を控えていただく事をお願いした。上記対応について、特に苦情等の申し出は無かった。

千歳療護園、第二千歳療護園では、「環境整備について」の苦情は、居室以外の場所の清掃に配慮が欠けていたと思われる。「買い物後の対応について」の苦情は、後で報告する筈だったが忘れてしまったケースで、気づいた時点で謝罪するべきだった。

た。「利用者間のトラブル」については、職員が早めに介入し適切な対応をすることで苦情にまで至らなかったのではと思われた。「利用者の見守り」の苦情は、日頃から利用者様の身体状況の把握と観察の重要性を認識しなければならない。

耳納学園は、今年度、苦情 2 件（利用者様から 1 件・ご意見箱（記名）1 件と要望 1 件（ご意見箱（無記名）1 件）が出された。すぐに苦情解決委員が動き、面談による状況確認、原因究明、対応策を話し合い問題解決を行った。苦情や要望に関する事は、時間を置かず苦情解決委員が直ちに対応することを、メンバー全員が共通認識して対応している。（苦情解決委員への信頼も高まる）

今までは、利用者間のトラブルは自治会活動の中で解決していたが、最近は職員が仲介役になる事が多くなっている。これからも、利用者が快適な生活が送れるように支援を行っていかなければならない。

虐待防止委員会

《概況》

令和 2 年度の虐待防止委員会は、各施設で定期的な委員会を開催、利用者様の虐待防止を目的に、各課連携を図り権利擁護、身体拘束や不適切なケアが行われていないか等虐待の早期発見、防止に努め改善事項を確認、周知徹底し、利用者様が安全に安心して生活できるように取り組んだ。

虐待防止の自己チェックのアンケートを実施し、アンケート内容を再チェック、評価し問題提起を行い虐待防止に取り組んでいる。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、全体研修会の開催は中止。虐待防止研修会は書面での報告会開催とし、虐待防止の自己チェックの集計結果の報告を行った。12 月の第三者委員報告会は、書面報告とし虐待防止セルフチェックの結果を郵送した。

今後も虐待防止セルフチェックを定期的に行い、虐待防止に繋がっていくよう、継続していく。

《取り組み》

ゆうかり医療療育センターでは、各寮において、虐待防止委員会を 1 回/月開催した。権利擁護、身体拘束の視点から、問題提起し、利用者様が安心して生活が送れるようカンファレンス等で情報を共有し、一人一人が人権意識を高めながら、支援の質の向上に繋げていった。また、虐待防止自己チェックリストの結果を踏まえ、虐待につながるようなアンケート内容を抽出し、周知していった。

コアラ園は、毎月第 3 水曜日に開催するコアラ園会議内で委員会を実施し、虐待に関する情報等を各委員より出してもらい記録を残した。

登園児保護者の子供への気になる接し方（身体を叩く行為）などの情報が出たが、虐待と思える状況や情報は無かった。園児の身体の傷や、身体整容等の状況の情報

があった場合は、相談支援事業所「夢の紀」スタッフと連携し、各当該市町村へ情報提供を行うようにしている。

新型コロナウイルス感染予防対策として、千歳、第二千歳合同で9月と3月に開催していた苦情解決委員会を今年度は千歳、第二千歳それぞれで委員会を開催し、現在身体拘束状態にある利用者様の現状報告、及び身体拘束廃止に向けた検討、9月に「施設・地域における障害者虐待防止チェックリスト」

3月に「危うい傾向チェックリスト」を実施し、それぞれの施設評価、各種研修会への参加状況報告を行っている。チェックリストについては、具体的な内容を記入して頂き、問題点への対応等を検討し、それぞれ施設のカンファレンスにて全職員への周知を行い権利擁護と虐待防止の意識向上を図っている。

耳納学園虐待防止委員会は、常日頃から職員に対して利用者様への虐待防止、また、人権を尊重するように注意喚起を行っていた。8月には、虐待防止の自己チェックリストアンケートを実施し虐待等に対し職員の再認識を図るとともに、職員間でチェック機能を高め虐待防止に努めた。

安全管理委員会

《概況》

当委員会は、利用者様と職員が安全、かつ安心な生活、又高度な医療を受けられるよう環境を整え、利用者様本位のサービスの質の向上を重点課題とし、医療・介護・療育場面における事故防止を図る事を目的とし、各施設においてそれぞれの活動を行った。職員より提出されたインシデント報告書、及びアクシデント報告書の評価を行い、事故防止対策の具体的内容について検討し、再発防止、未然防止につとめた。

《具体的取り組みと事故発生状況》

[ゆかり]

*本年度の年間目標を『医療安全対策分析用紙を活用し、事故防止対策に努める』を掲げ、①利用者様②職員③環境など④管理などの4項目に対してそれぞれ要因、問題点に対して対策を講じ、改善を図ることにより再発防止に努めた。又、毎月開催の委員会にて、各寮、及び各部署から提出されたアクシデントの発生状況についての分析と問題点を検討、又各寮、各部署での取り組み状況についての報告を行い、職員の安全に対する意識を高めた。アクシデント件数は、前年度211件

より16件増加の227件となった。

(事故報告件数)

転倒、転落・・・28件	外傷・・・27件	与薬関係・・・60件
注入カテーテル関係・・・65件	打撲・・・8件	骨折・・・1件
その他・・・38件		
		合計・・・227件

[千歳]

*今期のアクシデント報告は23件あっている。来年度は同じ事が繰り返されることのないよう周知徹底し、より安全な介護サービスを提供することを職員一人ひとりが意識しながら、業務にあたらなければならないことを伝えている。今後も加齢に伴う身体機能の低下や健康状態の悪化等の状況があることを職員が意識し、利用者様一人ひとりの状態の変化を日頃から把握し、事故に繋がらないように努力していきたい。

(事故報告件数)

転倒・・・13件	転落・・・1件	外傷・・・2件
自傷・・・1件	誤薬・・・2件	カテーテルの抜去・・・1件
食事準備時の異物の混入・・・3件		計 23件

[第二千歳]

*安全管理の取り組みとしては、より安全な介護を目指すべく介護マニュアルを作成し、キャリアの浅い職員(新人)への教育に継続活用している。アクシデントについては、施設全体で検討、分析し、同じ事故を繰り返さない様、支援を行った。今後も、利用者様の安全を心掛け細心の注意をはらい、より快適な園生活を支援できる様、職員一人ひとりが事故防止に努めていきたい。

(事故報告件数)

転倒、転落・・・1件	外傷・・・2件	与薬・・・1件	他害・・・3件
			合計・・・7件

[耳納]

*本年度のアクシデント報告は3件で、そのすべては、転倒事故であった。その内1件は入院加療を要した。利用者様の高齢化に伴う体力の衰えを考慮しながら環境整備を行い、又、利用者様と共に事故防止の意識向上を目指した。

(事故報告件数)

転倒・・・3件	合計・・・3件
---------	---------

医療機器安全管理委員会

《概況》

医療機器安全管理委員会は、2ヶ月に一回その月の最後の月曜日に委員会を予定し、感染症が流行している時は、話し合いを中止にしている。
構成メンバーは、臨床検査技師・診療放射線技師・薬剤師・歯科衛生士・各寮看護師の7名。

《開催日の状況》

R2年8月24日 10月26日 12月21日
R3年2月22日

《内容》

1. 医療機器修理・点検・購入について

- ・修理や購入については、対応年数を超えている機器が多くなり、購入から何年使用しているかや修理に何回だったかなどを確認したうえで、修理に出すか、新しい機器を購入するか検討した。

《内部研修会》

- ・診療放射線画像処理システムが変更になったためシステムの使い方の講習会
R2年9月25日 Dr 2名 診療放射線技師 1名 検査技師1名 計4名
- ・CBC(全血球計算)の機器が新しくなり、それにともない、緊急時(休日)の検査を看護師に行っていたくために、機器使用の講習会を検査室で行った。

検査室 R2年9月30日 2名(検査技師)

なかよし寮 R2年11月20日 7名

おひさま寮 R2年11月24日 6名 11月26日 3名

R2年12月9日 5名

ともだち寮 R2年11月27日 6名 計27名の参加

医療ガス安全管理委員会

《概況》

医療ガス安全管理委員会は、医療機器安全管理委員会と並行して行った。

《内容》

- ・医療ガスの点検については、前の契約分で1年点検を1月7日・27日で行ってもらい異常なかった。R3年度からは新しい契約で計4回行う。

防災対策委員会

《概況》

社会福祉施設においては、各種の災害時の際には特に配慮を要する利用者様が入所されており、その防災対策を確立することが強く要請されている中、当委員会ではより良い防災対策を確立し実施することを目的に活動を行った。火災時の対策に重点を置き、各施設(耳納・千歳・ゆうかり)定期的に避難訓練を実施し、常日頃から職員及び利用者様の防災に対する意識向上を図った。又、地震災害・風水害等の自然災害にも対応できるようにマニュアルを作成した。7月の豪雨、9月の大型台風接近に対して、実際に夜間待機人員を確保し災害に備え、利用者様の安全確保、施設の被害を最小限に留めることに努めた。

久留米市消防計画に定められた避難確保計画については、久留米市防災対策課より一部指摘があり、指摘部分を改正して再度提出している。又、災害時事業継続計画(BCP)についても作成を行った。

毎年開催されている浮羽消防署管内の屋内消火栓・消火器操法大会については、コロナ感染防止のために今年度は中止となった。

《火災想定避難訓練実施状況》

コロナ感染防止のため各施設、各寮にて実施。浮羽消防署立会いによるゆうかり学園夜間想定総合訓練については消防署に確認を取り、コロナ感染予防のため消防署職員による講話の予定だったが、日程が合わず実施できていない。

院内感染対策委員会

《概況》

令和二年度は新型コロナウイルス感染症のパンデミック(世界的大流行)により、感染予防対策を強化した一年であった。ゆかり学園新型コロナウイルス感染対策基本指針の遵守と感染症対策の徹底により新型コロナウイルスを含むほとんどの感染症の流行を抑えることができた。

月	内 容
4 月	令和 2 年度年間計画・委員会指針について 新型コロナウイルス感染症について 臨時委員会（発熱者の対応マニュアル）
5 月	新型コロナウイルス感染症対策（現況）
6 月	新型コロナウイルス感染症対策（外来再開、注意喚起）
7 月	新型コロナウイルス感染症対策（職場環境等）
8 月	新型コロナウイルス感染症対策（負のスパイラルを断ち切る）
9 月	新型コロナウイルス感染症対策基本指針見直しと情報交換 臨時委員会（職員の家族に発生、情報共有と対応）
10 月	新型コロナウイルス感染症対策（新しい生活様式）
11 月	手洗いについて 全職員対象手洗いチェック（手洗いチェッカー使用）
12 月	手洗いについて 新型コロナウイルス感染症対策アンケート実施
1 月	新型コロナウイルス感染症対策アンケート結果報告
2 月	新型コロナウイルス感染症対策(施設従事者の PCR 検査について)
3 月	アルコール手指消毒について 全職員対象手洗いチェック（手洗いチェッカー使用） 令和 2 年度感染症報告

開催日 毎月第 1 金曜日

開催時間 9：30～10：00

委員 所長他 15 名

全体研修会は感染対策により中止となったので、12月に新型コロナウイルス感染症対策の確認と意識の向上を目的に全職員にアンケートを行い、1月に文書にて結果報告した。改めて、職場での感染対策の課題など明確となり、感染対策の強化に繋がった。

久留米市の新型コロナウイルス感染症対策専門家派遣事業として、感染症発時の

実践的な講義と指導を受けた。

手洗いチェックについては、本年度は手洗いチェッカーを使用し、全職員を対象に実施した。チェックシートにて個々の評価を行い、手洗いに対する意識が向上したと考える。

新型コロナウイルス感染症対策は、今後も継続していかなければならない。感染症対策の基本である「持ち込まない・持ち帰らない・ばらまかない」を挙げていき、職員一人ひとりが「新しい生活様式」を踏まえ、利用者様が安心した生活ができるよう、取り組んでいかなければならない。

衛生委員会

《概況》

職場の衛生管理体制を整備確立するとともに、職員の健康保進を図り、明るく快適な職場環境を形成するために、月1回院内感染対策委員会と一緒に開催。年1回全体研修会を実施。

月	内 容
4月	令和2年度計画について
5月	ストレスチェックについて
6月	熱中症対策
7月	ストレスについて
8月	熱中症について
9月	「新しい生活様式」につて
10月	——
11月	気温と湿度
12月	コロナ禍におけるハンドケアの大切さ
1月	マスクについて
2月	職場で「コロハラ」を起こさないために
3月	アンガーマネジメントにつて

6月に全職員対象のストレスチェック実施する。314名中297名受診できた。(受診率94,6%) 受診回答に不備があり、17名は受診できず。

結果として44名(受診者の14,8%)が高ストレス者と診断された。

(全体の14,8%) 結果は所属長へ配布する。

今年度は全体の研修会は中止となった。新型コロナウイルス感染症対策において、業務の大幅な改善、職員の「新しい生活様式」での日常生活の制限などによるスト

レスも多大であると考え。毎月の衛生指導において、7月、2月、3月に「ストレスについて」「コロナハラスメント」「アンガーマネジメント」の紹介と資料配布した。次年度も、衛生指導の中で、メンタルヘルスをおこなっていききたい。

広報委員会

《概況》

広報委員会は、広報紙の発行とホームページの管理を担っている。

広報紙は6月1日（62号）、10月1日（63号）、2月1日（64号）の年間3回発行し、委員8名で構成した編集会議は、施設内LANを活用して年間3～4回にとどめ、締め切り内に発行できるように、努力している。

ホームページに関しては、インフォメーションなど手軽に更新できるようにリニューアルしているが、更新数は多くない。

広報紙各号の内容および配布先や発行部数は、以下の通りである。

[発行内容]

- 第62号（令和2年6月1日発行） 表紙…おひさま寮
 - ・ 当園における流行性疾患、感染性胃腸炎、インフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症等に対するの取り組み…ゆうかり医療療育センター所長 小児科医師 大滝 悦生
 - ・ こえだ物語 57《☆コアラ園の活動☆》～児童の発達支援を！～
 - ・ 今日の仲間 45（中学部、高等部計5名の入学者紹介）
 - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）
 - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、新人紹介他
- 第63号（令和2年10月1日発行） 表紙…第二千歳療護園
 - ・ 新しい事業体系に向けて…耳納学園 園長 南菌 浩一
 - ・ 天皇皇后両陛下ご接見報告 令和2年7月3日 赤坂御所にて
 - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）
 - ・ 今日の仲間 46（耳納学園、千歳療護園、なかよし寮、支援センターちとせの仲間）
 - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、新人職員紹介他
 - ・ 2019年度事業報告、決算状況報告および令和2年度事業計画の報告記事
- 第64号（令和3年2月1日発行）

- ・ 表紙…第 39 回肢体不自由児・者の美術展/デジタル写真展
厚生労働大臣賞受賞 ともだち寮 山田 高義 様
- ・ 新年のご挨拶…日野理事長
- ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）
- ・ 今日の仲間 47（ともだち寮、おひさま寮、第二千歳療護園、コアラ園の仲間）
- ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、新人職員紹介他

[配布先および発行部数]

- ◎学園関係（利用者様及び園内各部署、全職員、賛助会員様等に配布…800 部）
- ◎行政や地域、関連諸施設、学校などに配布（700 部）
- ◎1 回の発行部数は 1,600 部。年間発行部数は 4,800 部であった。

療育会議運営委員会

令和 2 年度 表の通り計画しましたが、新型コロナウイルスの影響により、計画通りに実施することができませんでした。

そのため、各研修会をビデオによる研修会および書面による報告に変更し実施しました。

令和 2 年度 療育会議実施表									
日付	会議名	司会	記録	準備・片付け	日付	会議名	司会	記録	準備・片付け
4/8	講義(理事長)	原 貴子	大山美佐	なかよし看護	10/14	運動会最終打ち合わせ			千歳
4/22	各施設・寮				10/28	各施設・寮			
5/13	予備日			おひさま育成	11/11・18	医療安全・感染症研修会	占部千里	坂本尚美	第二千歳
5/23	各施設・寮				11/25	各施設・寮			
6/10・17	QC 発表会	大山美佐 廣瀬晴菜	廣瀬晴菜 福山和也	耳納・給食・心理	12/9	虐待防止研修会	坂本尚美	武藤美智恵	訓練
6/24	各施設・寮				12/23	各施設・寮			
7/8	盆踊り最終打ち合わせ			ともだち育成	1/13	講義(局長)	武藤美智恵	水姫秀憲	ともだち看護
7/22	各施設・寮				1/27	各施設・寮			
8/5	衛生管理研修会 メンタルヘルス研修会	福山和也	中村正和	おひさま看護	2/10	報告会 (苦情解決・安全管理・ 感染症委員会)	水姫秀憲	桑原景子	なかよし看護
8/26	各施設・寮				2/24				
9/9	外部講師(人権研修)	中村正和	占部千里	なかよし育成	3/10	予備日			おひさま育成
9/23	各施設・寮				3/24	各施設・寮			
<small>※第 2 週目にできなかった場合第 4 週目に変更することがある。 *第 4 週目に講義および研修会が実施されることもある。(その場合の司会・記録は運営委員で実施)</small>									

福祉QC委員会

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、活動を中止した。

ゆうかり医療療育センター防犯対策委員会

《概況》

当施設においては、身体的、精神的にも配慮を要する利用者様が多く入所されており、その防犯対策の確立が強く要請されている中、当委員会ではより良い防犯対策を確立することを目的に活動を行った。

《具体的取り組み状況、及び内容》

新型コロナウイルス感染症対策の為、毎月の防犯対策委員会は中止した。各寮の設備面（自動ドア、窓周辺、インターホン、さすまたなど）のチェック報告、ゆうかり敷地内の確認、門扉、全周囲フェンスの確認、又は、防犯監視システム、防犯カメラ、センサーライト、外灯等の外部設備等の動作確認を行い『防犯設備チェックリスト』への入力により、日常的に防犯に対する意識向上を図り、書面での報告とした。

令和2年度は、下記の通りそれぞれの寮において防犯訓練を実施した。新型コロナウイルス感染症対策の為、ゆうかり医療療育センター全体での防犯訓練は実施できなかった為、感染症収束後、全体訓練、又夜間帯を想定した訓練などの実施を課題とした。

新任職員研修の中では、防犯対策委員会設立の経緯、防犯ビデオ研修、防犯対策委員会の活動状況の報告をした。

4月…ともだち寮

6月…おひさま寮

8月…総務・外来

9月…ともだち寮

10月…新任職員研修会

10月…なかよし寮

12月…おひさま寮